明治卅五年三月廿七日　第三種郵便物認可
明治四十二年一月一日發行　毎月二回（五日・廿日）發行　電話番町千七百四十五番　同五百二十番　振替貯金口座一一三八一番

社説

新年の辭

鷄の啼き聲も、今朝は殊更爽かに、水汲む釣瓶の音も勇ましく、やがて東の空紅を潮して、靜かなる大海に洗ひ立てたる初日の光さしいでゝ、世界の春は、日の本よりぞ始まりける。明らけく治まる御代の四十二年は、今日より立ちそめて、檐端にひらめく、日の丸の色鮮かに、炊烟裕かに立ち昇りて、家内頭並べて、雜煮を祝ふ太平の難有さ。平和の瑞辭は、道行く禮者の顔にも現はれたり。

毎年のことなれども、幾歳となりても氣持好きは、正月なり。何となく氣も暢び〳〵と、大昔にも返りたる如き心地して、「御目出度」も、たゞ口上ばかりにあらず、紙鳶の唸りや、追羽子の音には、老人も若がへりて、一つの年は取りながら、後へ取りたる如く、元氣づくも、正月の得なるべし。斯の如く、正月は、目出度い一方にて、人の氣も良く、家内も平和に、世の中も穩かなり。されば年中通して持ちたきは、この正月の氣分なり、調子なり。正月の笑顔を、年中つゞけに出來る人こそは、眞に目出度き人といふべけれ。

生き身には、疲勞あり。疲勞には、骨休めあり。正月は、その骨休めの時にして、今日仙人の如く、悠々と遊び暮らすは、是より年中大勉强せんとの元氣の仕入れの爲めなるを忘るべからず。我が國も、國民一同の奮發にて、これまでに、熨斗上げたるもの、今更引く譯には行かず、根限り精一杯の働きにて、何處までも押し進まざるべからず。それには勿論婦人を、勘定の外におきたるにあらず、男子に少しも後れず、婦人は婦人相當の働きをなすべきことを、國家は待ち設け居るなり。殊に愛國婦人會の事業は、軍人遺族の存する限りは、益々盛んにすべく、斯く互に樂しき正月を迎ふるにつけても、氣に懸るは、遺族が如何に、この正月を迎ふるかの一事にして、今日我が國が、世界列强の仲間となりて、隆々の盛運に向ひしも、家族を後に、國の爲に僵れたる人々の力に依ること大なるを思へば、如何にしても、その遺族の救護はなさゞるへからず。これ、本會の責任の大にして、會員諸氏の骨の折るゝ所以なり。されば、正月は、年中の大活動を始むる、しばしの休息と心得て、食べるだけの雜煮を食べ、つくだけの羽子をつき、取るだけの歌留多を取りたらば、あとは、大に働かざるべからず。我等は、我が國の婦人が、本年如何に活動し、殊に愛國婦人會及び會員諸氏が、會の事業の爲めに、如何に活動するかを、今より刮目して觀望するものなり。こゝに新年の門出を祝し、併せて希望を述ぶと云爾。

愛と情

伯爵　大隈重信

『鮎は瀬に住む、鳥は木に宿る
人は情の道に立つ』と云はれてあるが、情を知らぬものは人間でない。

情は愛情に發する。愛の力は能く事物を調和させると共に活動の動機を作る。活動の動機が無くては、何事も成立つてとては無い。

近者は種々の問題がある。社會問題から婦人問題——と種々ある。特に婦人の活動と云ふものは、何か一個の動機がなければ容易に起るものでは無い。然るに當今の婦人は仲々活動して居るのである。此活動は何に原因して居るかと云ふに、婦人の愛の發動と云はねばならぬ。此愛の發動に依つて、現に婦人は活動して居るのであるが、私は更に愈よ此愛の發動を盛ならしめて、益々婦人に大きな社會的活動をして貰ひたい、其活動の力を何處までも續けて行つて——一層社會上有效なるものにして行かねばならぬと思ふ。

愛と情——この二つのものは、人間その者が此國を文明に進めると云ふことと此人間の幸福を增すこと、或は哀むべき所のものや、或は社會の不幸、不遇なるものを救ふとか云ふことに對して、非常なる力のあることは云ふまでも無いのである。此大なる愛の力は、大なる希望を生ぜしむる基礎となる。これは何時の時代でも同じことであると思ふ。

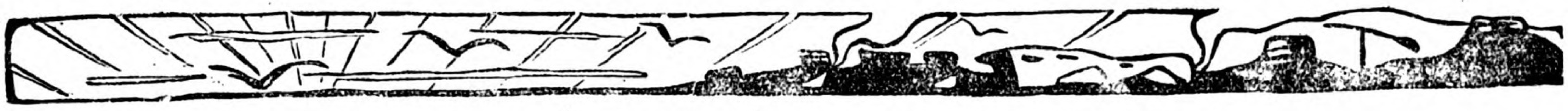
世の中には愛と情との力に基ける大事業が種々ある。我が愛國婦人會の如きが夫れである。何時の時代に於ても此方面には大きな事業がある。何も戰爭が起らなければ此愛と情との大事業が出來んと云ふやうなことは無い。否、平和の時と雖も此世の中には生活、生存の大戰爭が行はれて居るのであつて、此平和の戰爭は日に月に盛になつて來るのである。此平和の戰爭の勝利者もあらうし、劣敗者もあらう。此劣敗者に對し、新たなる希望と云ふ勇氣を保たしむるのも、これ愛と情との力である。

一體婦人は男子のやうに、如何なる事にでも手を出す譯には行かない。が、婦人が手を出し得る範圍内に於て爲すべき事業は澤山に在る。婦人をして、かゝる事業に忠實に携はらしめるのは之れ云ふまでもなく、愛と情との力であると思ふ。

昔時と違つて、概して婦人の地位と云ふものは漸次高まつて來た。それと共に婦人の教育と云ふものも追々盛んになつて來たのであるから、今後婦人社會も大いに舊態を革むることであらうと思ふ。が、何にせよ、婦人をして、かく舊態を革め活動を愈よ盛んならしむる根源は、此愛と情に他ならぬのである。

創刊明治卅五年三月廿七日●定價一部金三錢五厘
半年分金四十二錢●全國無遞送料●廣告料一行六十錢
發行所東京麹町區牛ヶ淵公園内愛國婦人會發行所●
編輯者永持德一●發行兼印刷人山澤俊夫●各部禁轉載

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



論叢

如何して人生を樂しく幸福に過すべきか（一）

愛國婦人會評議員　鳩山春子

人は如何なる境遇に居つても、また何のやうに苦しき地位に置かれても、自分は最幸福であると云ふ想念を保て居ることが必要だと思ひます。即ち其境遇、其運命に應じて自分の出來得る限りを勉め常に自分あるが爲め、幾分にても周圍の人をして幸福を得しむるやうにしたいと思ひ、此目的を以て働く事を最も幸福と考へるやうに致したいと存じます。

彼のヂスレーリ夫人は五十歳の時、後に英國の大政治家ロード・ビーコンスフイールドとなつたヂスレーリ氏が未だ三十五歳の時に歸いだので御坐います。其當時は英國の人々をも隨分驚かせたさうであります。五十歳と云へば日本在來の習慣から申しましても、また西洋に致した處で、世の常の婦人ならば、最早殆ど人生を終つたと考ふる年配でありますのに、此五十歳のヂスレーリ夫人と結婚して三十年目にヂスレーリ氏は斯う申しました。過ぎし三十年の間、一日でも一分でも樂しく思はれぬ瞬間は無かつたと。

されば夫人は出來得るだけの力を盡して始終その良人を慰めたに相違ありませぬ。これがヂスレーリ夫人の五十歳から八十歳までの間のことてす。それから夫人は何年間世にながらへたか知りませんが、何ても最後には癌病で死なれたのであります。其死ぬると云ふことは歴然と自分にも解つて居り、また其良人にも解つて居たのでありますが、良人も夫人も雙方から、決して其病氣のことを云出したことは無い。其樣な可厭な話を互にしたことが無いのみならず、左樣云ふことを思ひ出さないやうにして居つたと云ふことであります。

ヂスレーリと云ふ人は此夫人と結婚する以前には一向世に知られて居らぬ政治家でありまして、世の中から風評されない人でしたが、夫人は極めて富裕の上に非常の交際家で、又能く總ての人に愉快を與へるやうな性質であつたやうに思はれます。それでヂスレーリは非常に其恩に感じて居つたのださうてすが、要之、此夫人の爲めに段々と人にも知られ、政治社會にも地位を得來り遂に伯爵即ロード・ビーコンスフヰールドになりました。

それから夫人は四年目に亡くなつたさうてすが、其後ヂスレーリは家へ歸るには馭者に自宅へと申す時に、何時も自分て心中自分を欺く如く感じたと申されましたさうで御座います。と云ふのは夫人が逝去されし後は家にあつても家庭と申すものが無いからだと、斯う云はれたさうであります。これで考へて觀ても、如何に夫人は心を碎いて人を樂ませると云ふやうな性質でしたかゞ想像されます。

此頃承知致しますに、隨分長命をする人もある。日本だけても百歳以上になつて居る人が――確然と知れたゞけが三百八十八人餘ださうであります。就中、百十一歳の人が二人もあると云ふことてあります。佛蘭西では毎年百歳以上の人の死ぬるのは、殆ど百五十人だと申します。希臘に於ては佛蘭西の九倍（人口に比例して）、西班牙やベルガリヤ、ルーメニヤては千八百九十六年の調べに依れば五千五百人餘の百歳以上の人があると申します。

人間最高の樂

山根正次

（一）

例によつて、不景氣不景氣との叫び聲高き間に、いつしか歳も暮れ、歳も明けて、今や希望に滿てる新年を迎ふる事となつた。社會の上中下の人々、それそれ遊ぶ事にのみ忙しく、人間此上もなき樂しい時期の如く心得て、日尙ほ足らず、夜を徹して遊び狂ふ、其樣は如何にも樂しさうてある。それにも係らず此山根正次は、依然として正次て、新年が來たとて、さ程嬉しい事も何にもないのだ。ただ過去舊年の事を思ひ忘れずに、其苦痛、今後、やはり依然として續く事であらうと、當然自分は今より覺悟して居るのてある。

何か話せと云ふのか、よしどうせ正次のやうな貧乏者は、口に其事を主張するの資格はないかも知れぬが、吾輩が常に云ふところの慈善と云ふ事を、新年の劈頭に於いて云つてみたいと思ふ。嘗つて愛國婦人會の創設者たる奧村女史が現代婦人が奢侈を極めてゐる有樣を見て、某婦人教育會に於いて口を極めて罵倒されて且つ諸姉は、願くば半襟一つを節して恤兵せよと絶叫せられた事があつたが、眞にさうだ。

慈善と云へば、誰れても大さに考へてゐるけれど、決してさやうなものではない。其心かけさへあれば、半襟一つ位はあつてもなくつてもよい。然るにそれが實際に行はれぬところを見ては、如何に國民が慈善心にうすいかがわかるのてあります。

（二）

今も云ふ通り世の中は、愈々贅澤になつた。而して一年中、一月が贅澤の事實の最も甚だしく行はるる月てある。不經濟の事が最も多いのてある。或者は新年新年と稱して、妻君泣かせに、よからぬ遊びをする。芝居等を見る。しかし此等の遊びを絶對的に非認するわけては ない。人間には各々樂しみと云ふ事がある。樂しみを樂しむと云ふ事は、人間一日もなからねばならぬ事てあるから、絶對的に不可いと云ふわけてはないが、願くば人間の理想として、最も高尙なる樂しみを以て樂しみといたしたいものである。

娛樂として芝居を見る人もあらう。碁を打つて夢中になる人もあらう。美人の膝を枕として春夜の短きを恨む人もあらう。詩を作り、繪をかいて各々樂しげのてあるが、而かも此等より以上、最も高尙なる娛樂は何かと云へば、思ふに慈善と云ふ事が最高にして最大なる樂みてあらうと自分は確信するのである。

吾正次は不幸にして貧乏なるを以て、滿天下の諸子に慈善をすゝむる上に於いて甚だ誤解され易いのを遺憾に思ふのである。但し正次の性情を正直に發表すれば、慈善と云ふ聲に對しては、如何なる事情をも顧みる事なく。直に贊成するのてある。「困つてゐるから救つて下さい」と云つて來るものがあれば、ない金でも出して施してしまふ。此がために時として自分は、惡漢のために利用される事がある。實に「身を殺して仁をなすなかれ」と云つてあるけれど、自分は常に身を殺して仁をなしつつあるのだ。

（三）

國體が異る所以であらうか。西洋各國では、慈善事業が著しく發達してゐるのに、我國は少しも發達してゐないと言つても差支へはない位てある。日本の歷史上、親族相互に相たすけると云ふ狀態になつた結果、一般の不幸者を救濟すると云ふ念慮が發達しないのてあらう。

今後、生活の程度が高まるにつれて、貧乏者が益々殖えて來るのてある。貧乏者が殖えるにしたがつていろいろな犯罪者も殖えて來る。一家飢に泣くと云ふ不幸者も出來て來る。此を救濟する道と云つても人間最高の樂みを樂む即ち大慈善者が出なければならぬ。

△新天地▽

いつしかと明けゆく空のかすめるは
天の戸よりや春はたつらむ　顧仲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世の進步に伴へる女子教育（上）

前外務大臣子爵　林董

婦人の節操問題――過渡期の文明――社交的婦人――外國語問題――裁縫問題――美術音樂問題

△婦人問題

には隨分語るべき多くの問題が研究されつゝ、社會の各方面に存在し居れる事故、予の意見と云ふて發表する程嶄新なる事も無いが、兎に角、少しお話し申して責を塞ぐことに致さう。

婦人の教育は保守的に致すべきか、或は歐米先進國の模倣を爲すべきか、と云はゞ、何れを採るとしても、婦人の守るべき節操は男子の守るべき節義と同じきものであるから、唯だ一般の教育をして節操を美且善ならしめば宜いのではあるが、新時代の今日に當りては、如何に過渡文明と云ふ非難あるにもせよ、

△時運に適する教育

を以て其節操を完美に致さなければならぬ。唯だ女大學的や或は今少し古い支那的教化を加へて適當せりと稱するならばこれ婦人教育の如何なるものなるかを解せざるものである。

婦人には境遇に應じ適當なる文明の教育を施して、歐米先進文明國の婦人と同等なる才媛を、より多く世間に出さねばならぬ。併しながら彼れ新進文明國の設備は完善に行はれて居る上に、進步の急流は矢よりも早いのであるから、如何に模倣に巧みなる日本でも追ひ付くことは出來得ない。であるから、唯だ日本は日本なりと云ふ觀念を以て現狀を維持し、然して麗しき習性を墨守せしめつゝ、向上發展する他はない。尙ほまた婦人の最も好むべき

△驕奢は分相應

を越えしめざる事となして、世界的流行なる華美の社交を完からしめ、日本婦人の面目をして光彩陸離たらしめねばならぬと思ふ。

斯うするのには、外國語の如きも境遇に依ると、是非一二ケ國分に通じて置くべき筈になるから、勢ひ語學修養の必要が起る。同時にまた一家の主婦である以上は手紙を書いたり、計算を致たり、訪問者に接して、男子の手の屆かない所を補綴する事は必要なことである。その他に婦人の仕事に裁縫と云ふものがある。が、併しながら、此方になると、現今では洋服を常用するものが多く、從つて之れは洋服店へ依賴する方が便利であると云ふ次第故、此裁縫に就いては今ては餘程婦人の手が除けて來たと云ふ次第。であるから、斯う云ふやうな世運の進步につれて女子教育も、それと並行して斷へず改善せねばならぬと思ふ。

△美術でも音樂でも

西洋の方が大なる進步を爲して居るのであつて、日本の美術は運筆が善い、線の工合か善いと云ふ一部分だけの成功に過ぎぬのであるから、全體の美術は到底西洋に較ぶべき價値はない。彼の音樂の如きものも――或は叱られるかは知らないが――日本では僅か三本の線で長唄となり、義太夫となり、淸元となりて各流派に分かれるやうな如何はしい遣り方は西洋には無い。唯日本の美術なり音樂なりを見且つ聞いたりすると、恰もビフテキより刺し味が善いと云ふ樣に嗜好する藝術だから善いと云ふに止り、眞實に西洋の美術や音樂と匹敵せざるものなる故、婦人が此大問題に手を付けるとしても餘程の

△奮鬪の歷史

を作つて、初めて西洋の美術や音樂を解するやうにならねばならぬ理である。

日本婦人と西洋婦人

男爵夫人　本野久子

△長所短處はどちらにもある

私は婦人問題に就て別に發表する程の意見を持つて居りません。私が七八年間海外に駐在し居る間に、我が國の婦人界が長足の進步を致して居りますのには、歸朝して實に驚きました事で厶います。

歐洲でも普通教育を女子に授ける事には、非常に注意を致して居りますので、彼土では下女の如きものまで、簿記を自由に記載する位に發達して居りますが、學校の程度は西洋も日本も別段大差はないと思ひます。外國に行けば日本婦人と云ふ地位に對して、貴賓の如く到る處優待せられます事は、丁度我國に外人を優待するやうなものでありますが、日本に來たことのない外人には日本婦人を無遠慮に攻擊する人もあるでしやうが、元來日本婦人の長所短處は西洋婦人の長所と短處と、相異の點はありますが御互に優る處もあり。劣る處もあるので御坐います。

△外國語の素養

西洋では音樂や美術は中々發達して居りますから展覽會に陳列して男子以上の賞品を受くる女子なども見受けます。我國でも音樂は最近七八年間に、餘程進步した事を承り、誠に喜ばしい傾向だと存じます。語學の如きも是非二三ケ國の言葉は必要なので、西洋では其等の交涉の局にあたる地位の婦人は、凡て自由に二三ケ國語を語りますが、日本では一ケ國の言葉さへ、必要の地位にあり乍ら語り得る者は少ない樣に見受けられます。之れ等は誠に遺憾千萬の御話で御坐います。今の女學生達が成人せられて盛んに社交の上に活動せらるゝやうになれば、決して西洋の婦人に劣るやうな事は無いだらうと信じます。

△不規律なる社交の時間

元來婦人は男子をして內顧の憂ひなからしむる事が重なる努めと存じますが、然し丸きり蟄居主義では、如何も女子の本分を盡したと申すわけには參りますまいと思ひます。何となれば婦人として夫の爲に注意を與へ、又は夫の相談相手となり、或は多少外に對して社交的時間をも得る特權があらねばなりません。さればとてお轉婆に飛び廻れと云ふのではありませんが、西洋では社交の規律が社會一般に行はれて居りますので、何某夫人の面會日は何曜日の何時からと、ちやんと定まつて居ります、日本では例へ西洋の通り婦人が定めて居りましても、兎ても姑でもあると規律通りには參りません時折姑より紹介でもされた際には、面會しない譯にも行きません、どうしても習慣上規律が立たないと存じます。

朝早くから行かねば面會する事が出來ないと云ふて、午前七八時頃から亂雜にのべつに訪問を交換して居る日本の現社會には中々適用する事は出來ません。

△何事も妻に相談する

西洋では妻に向つて何事でも相談すると云ふやうに、男子から責任を分たるゝ故、妻の位置は大層遣り宜い事で御坐いますが、日本では一寸した事でも秘密を尙び、政治上や軍事上の事等は、如何に政治家の夫人でも、軍人の最高級の夫人でも、夫の事業には丸て關係する事が出來ません。多少害はあるとも夫婦共に相談すると云ふ地位に達せねば、社交界に乘り出す事は出來ない譯で御坐います。

畢竟するに女子の蟄居は男子の强制と申すべく、決して婦人の美德とは云へません、然しそうかと申して、たゞ男子計りを攻める事は出來ないので、先づ婦人自身その地位を高め、自ら男子の尊敬を受けるやうに心掛けねばならぬので御坐います。

△結婚に關する習慣

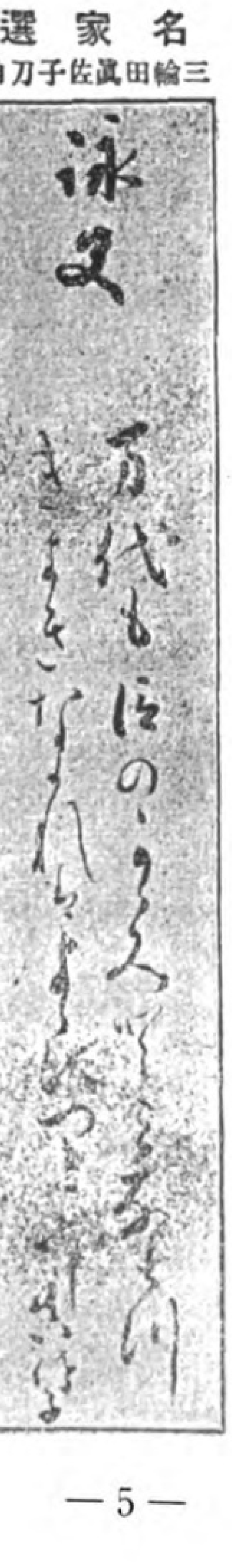
結婚の如きも西洋人は日本の婦人は十四五才から嫁に行くやうに思ふて居りますが、今日では高等女學校卒業が十八才と致せば先づ廿歲位迄に多くは片付かれ居るやうに見えますが、西洋でも廿歲にはよほど緣付くやうて、廿歲まで緣付かないのは遲い方であります。何れの國でも人情は同じでありまして、友達が良緣に付くと何だか急いて結婚する風が見えるやうて、自由結婚と申しても父母の許可なきに、無暴に世帶を持つと云ふやうな事はありません。中には父母が娘の爲に聟を選定する事も御坐います。

私の觀察がせまい故かも知れませんが西洋では日本の下層社會の樣に、野合の夫婦はないやうに見受けますが如何でせうか。

△秘密主義の希望

獨身生活を送つて居る婦人の數も、想像するよりは少なく、男女同權の佛國には、殊更罕れのやうに聞いて居ります。日本の婦人社會の前途も、教育の進步に伴ふて、早婚の弊習を脫し、先進文明國の如くに、夫婦間の相互的敬愛心が發展する事は疑ふ餘地の無い事て、それにつけても、秘密一點張りの男子の性習は婦人の爲に、是非一掃するやうに希望するので御坐います。

名家選
三輪田眞佐子刀自



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

清國旅行中に愉快を感ぜし一二

愛國婦人會顧問子爵　清浦奎吾

△留學生と日本人

清國視察旅行中愉快を感じたのは、斯う云ふことである。

その第一は我が國人の聘せられて教師となつて居る學校を視察した處が、概して成績の良好なることであつた。

第二に又我國に留學して居つた清國人は速成卒業生の他は成績が特に優等であつて、且頗る重き地位に措かれて在ることであつた。が、就中、最も愉快を感じたのは、是等日本に留學して居て、今や清國に重用されて居る人々から一行が招待を受けた事であつた。

その砌、主人側三十八名孰れも日本語に通じ、演舌なり、談話なり、無論通譯を用ゐず、日本語を用ゐて滔々と辨ずるなど、一行をして羈旅にある感想をなさざらしめた。――一行の中に、恰かも同郷人の會合のやうである、と云ふ人があつたが、小川代議士の如き同郷人の會合以上であると叫んだ。これに依つても如何に此會合が愉快なものであり、また清國人の日本に留學した効果の如何に大であるかゞ知れやうと思ふ。

△京漢鐵道の快速力

北京から漢口に到る鐵道は五日目毎に最大急行列車を發する定めてあるが、客車の整へること、速力の大なるとには眞に愉快を感じた。これも愉快を感じたことの一つであるが、尚ほ今一層愉快を感じたことは

△清國人の我國に好意を表することの著るしかつたことで、これは總ての事々物々に現はれて居つた。殊に十一月三日に我が天長節と清國の萬壽節と恰も同日になつたと云ふて、これ日清兩帝國愈よ和親を增す兆であると挨拶した如きは、その言、確かに誠意から出て全然我國に對して好意を表して居ることとして愉快を感ぜずには居られなかつたのであつた。

無論、われ等一行を非常の誠意を以て驩迎したのは、一行の主たる人が肥前肥後の舊大藩主であつたと云ふ門地あるにも由らうし、鍋島侯爵及び侯爵夫人が東亞同文會若くは東洋婦人會の主腦となり清國の開發に寄與せらるゝ所あるにも由るであらう。が究極は日本國の君主にてましますが我天皇陛下に對し奉り敬意を表する爲に來遊の我等臣子を驩迎するものであると、深く感じたのである。

△國民外交の力

清國旅行中吾人一行の愉快を感じたことは以上の他、まだ〳〵種々あるが、これも一行が愉快を感じた同時に、國民外交の力が、かゝる所にまでも影響の及ぶものであると感じた其一例である。それは斯う云ふことである。

漢口に韋紫封と云ふ仲々の豪商があるが、廣東出身で、七十歲ばかりの老人であるが、此老人非常の有力者であつて、漢口の商業及び商業者は此老人に依つて、如何やうにも左右せらるゝのである。清國人が一行を招待するには章の宅でしたが、老人頗ぶる喜び、自ら出て、款待を盡した。曩に廣東で日本に對し排貨を起すもの、あつた時、老人にも漢口で日本に對し排貨を起せよと請うたさうだ。然るに老人は起すべき所以を認めずと主張したさうだ。これ漢口の商業關係自ら薄いと云ふ原因もあらうが、老人が日本の好意を解して好意を以て酬ゐたのに他ならぬと思ふ。それに就けても我國の人が清國人に對して好意を盡せば、清國人も亦た好意を以て之に酬ゆるは疑ひの無いことであつて、これに依つて國民外交の力を認めることが出來やうと思ふ。此點は婦人方にも記憶して戴きたい。

愛國講座

趣味修養の必要（一）

早稻田大學講師　紀淑雄

いつの世いづれの國の人を問はず、修養といふ事の必要なるはいふまでもありませぬが、殊に我が現代の人々に於ける程修養の必要なる事はなからうと思ひます。なぜかといふに、一面には、我が國は今や世界の一等國として、高く東洋の諸國に傑出し、我が國民の一擧一動は、世界のあらゆる隅々にまで、注意せられつゝある時で、國民の云爲行動に非常なる重い責任の伴つて來た爲め、絶えず俗に所謂我がふりを見なければならぬといふ境遇にあるからであります。いひ換ふれば、我が國民は今や自個の位置境遇及び責任を自覺して、一擧一動大國民的の言行を意識的にせんければならぬので、勢ひ修養に勉めなければならないのであります。

それからまた一面には、非常に交通の便が開けたにつれて、その日〳〵の外國の思潮が我が國に影響するやうになつた爲め、未だ曾てあらざる所の外來の刺激が世界の四方から頻々と來るので、或は我が國固有の文明の本質特色と衝突する事もあり、或は衝突せぬまでも、重大なる問題であつて、未だ充分に解釋せられ消化せられて定着せぬ間に、又次ぎの新たな外來の思潮に應じなければならぬやうに、所謂應接に暇ない爲めに、種々の思想や種々の現象が混合し雜揉して居る。かゝる點から我現今の時代をば或は過渡時代とも云ひ、また或は混沌時代とも云ふのでありませうか、ともかく斯る時勢に身を處し、世界の文明國民と競爭し、國威民福の發揚增進を圖らねばならぬ我國民は、一層自個修養の必要を感ずるのであります。

さて一概に修養と申しても、其の中に智的なもの、道德的なもの、美的なものの種類があつて、此等はいづれも偏廢輕重の出來ないものでありますが、其等がいづれも特に今の我が國民に必要であると思ふのであります。併し上にも云つたやうに、我が國民は精神界に於ても、物質界に於ても、內外から未曾有の刺激を受け、重大な責務を負ひ、其れに日々堪へて居るのでありますが――所が智的の修養では、自覺的意識的に成つた人々の心の底に潛んで居る疑問を釋き、懷疑の念を拂ひ、光風霽月の思ひをせしむる事の出來ない所がある。殊に經驗の知識に富まぬ血の若い男女の心には概ね多少懷疑の雲が掩ひかゝつて、多少の煩悶を免かれない樣でありますが、知識で滿足せられない斯る時代の人々には、特に自足悅樂の快感を與ふる美的修養の必要を感ずるのであります。また德性の修養がやかましく唱へらるゝにも拘らず、往々倫理道德の利刃が是非曲直善惡正邪の裁斷に鈍ることがある。又宗敎上の信條又は敎理に疑を懷く人も多く、無明の暗に迷つて、徒らに救ひの聲を放ち、煩悶して居る人が多いやうである。かゝる事は今日に限つた事ではあるまいが、併し現代の著明な現象とも思はれる。而して智性の修養と共に德性の修養て、現に自足安心せられぬ事を、深く切に感ずる現時に於ては、一層美的修養の必要を感ずるのであります。言ひ換ふれば、趣味性の修養の必要を感ずるのであります。

詞叢

燕　一

薄田泣菫

逢ひはせぬかの野の路で
海へ往にやるつばくらに
木の葉も落ちる昨日今日
夏もどうやら暮れたとて
今年產れの子を連れて
慌てたやうに往んだげな

燕　二

海の南の國ぢやとて
冬が無いてもあるまいし
また麥の穗が熟れそめて
夏が此方へ來たならば
旅て產れた子を連れて
やがて逢はうと言うてたもれ

田の面の稻は刈られたし
も往の往のとは思へども
あとに名殘が惜まれて
昨日も今日も往にかねた
麓の里のつばくらめ

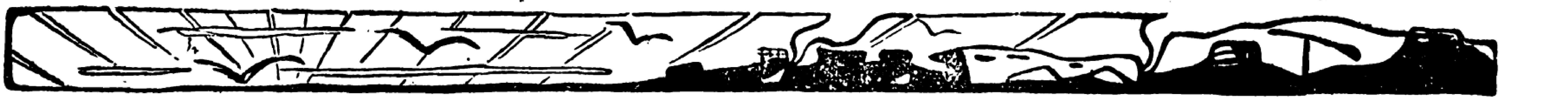
寧そ今年は泊ろかと
古巢にまたも來たものの
獨り住居のさびしさは
落葉の音に南國の
夏を夢みるつばくらめ

風

裏の畑の桃の木に
惡戲者の風が來て
つい今し方かさこそと
人騷せをしてゐたが
今來て見れば熟れそめた
黃金の桃が落ちてゐる

此處にも一つ、そこにもと
拾ひはするが氣づかひな
落した主へ返そにも
あの氣短かな風ぢやもの
もう山つゞき野をこえて
遠い國へと往つて居ろ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



魔鏡

チエホフ作　瀬沼夏葉譯

余と妻とは客間に入つた。室内はひかッとする位、苔と、濕氣との黴臭い臭氣に充滿されてゐる。火の光線が、長い間全然光を見たとのない壁を輝した時に、數萬匹の大小鼠が、蜘蛛の子のやうに一散に四方に飛び走つた。余等は室に入つて戸を閉める、と、プンと風は臭つて、隅々に積み重ねられてあつた紙を吹き動かす。火の光は此の紙の上をも輝した。余等は古い昔の書物、中世時代の繪畫などを見た。久しい年數を經た爲に、青味を帶びた四方の壁には、祖先の肖像がかかつてゐる。祖先等はさも傲然と、ぞッけない顏に睨み下して、恁く云つてゐるかのやう。

「こら、貴樣毆打るぞ!」

余等の跫音はみしり〳〵と家中に響く、余が咳に反響は應答へる、これは嘗て余が祖先に應答へつゝあつた其の反響である。

折から風は悲しく嘯く、唸る、暖爐の煙突の中では誰かゞ泣いてゐるやう、て、其泣聲には失望の音が洩れた。大粒の雨は暗い曇つた硝子窓を叩いて、しんみりと何とも云へぬ哀切の感に襲はれた。

「嗚呼、祖先よ!祖先!」と、余は長大息して云ふた。「俺が若し文士で有つたなら、此の畫像を拜して、一部の長篇な小説を書くのであらう、此の居並ぶ老人達は、何れも嘗ては若かつたので、それぞれに皆小説を有つてゐたらう……て、其小說は!例令ば此の老女、即ち余が曾祖母だ、見なさい、此の醜婦さ、然も彼女自分には、甚だ面白い小説を有つてゐた。あれ見えるか、お前に?」と、余は妻を顧みて問ふた「彼處の隅に懸つてゐる鏡だ、あれさ、あれが見えるか?」と、余は曾祖母の肖像の側の隅に懸けてある、黑の青銅の縁に嵌つてゐる大きい鏡を指して妻に示す。

「此の鏡は魔力を有つてゐるのだ、見なさい、あれが抑も俺の曾祖母を亡したものだ。彼の人は之に莫大な金を拂つた。而して、死ぬ時まで之と離れなかつたのだ、晝となく、夜となく、仕切なしに見通しに見てゐた。飲んだり、食べたりする時でも見てゐるし、眠る時でも乾度之れを自分の臥床に置く、甚だしきは死ぬ間際にだ、自分と共に此の鏡を棺の內に藏めるやうにッて遺言した、然し此の遺言が實行されなかつたのは、唯、棺の內へ之れが入らなかつた爲にだ。」

「此の曾祖母樣は那樣にしやれものでゐてゝしたか?」

「さうだつたかも知れん、然し他の鏡は無かつたのが、奈何して唯此の鏡に限つたものか、又さう氣に入つたものか、もつと好い鏡を有つてゐなかつたと云ふのか?いやお前、其れは恁うだ、其處には又大に其處があるので、いや乾度さうだ……傳に曰くだ、鏡には惡魔が坐つてゐる、所が此の曾祖母が又面白い此の惡魔に對しては非常に脆い、と云ふことだ、勿論此れは噓てあらう、が、左に右此の青銅の縁の鏡が、不思議な魔力を有つてゐたと云ふことは事實なのだ。」

余は鏡から塵を拂ひ落して、さて其の面をつく〳〵と視て思はず笑ふ。余が笑聲に反響は微に答へる。鏡の面は波打つ如く凹凸して、余が顏を化者のやうに歪まして見せた、鼻は左の方に、頤は二つに別れて片方に引付けられた。

「俺の曾祖母は奇妙な趣味を有つてゐられたものだ。」余は云ふた。

妻は躊躇ひながら、竊と鏡に近づいて其れを見た、すると忽ち一大珍事。彼女は色を失つて、手足を顫はし、キャッと叫んだ。燭臺は彼女の手から床の上に轉げ落ちる、朦燭の火は消える、後は黑白も分かぬ眞の暗。其時何物かどッと音して床の上に倒れるのを聞いた。是は余が妻の氣絶して倒れたのであつた。

風は又一しきり哀な聲に泣き、大鼠は走り出て、紙の重つた間には小鼠がかさかさと音をたて初める、有繫に余もぞッとして髮が逆立つた途端、がたんと窓から戸が外れて庭に落ちた。而して其處から何時しか晴れた空の月の顏が見えた。

余は妻を抱き起して、此の祖先の住家から抱へ出した。彼女は其翌晩になつて、やう〳〵我に返つて云ふた。「鏡は何處か?」

其れから一週間と云ふもの、彼女は飲みもせず、食べもせず、眠りもせずに、唯だ鏡のこと計りを言ひ續けてゐる、而して髮を毟つて、物狂ほしく跳廻つてゐた。余は醫者が彼女を氣遣つて、非常な衰弱故に或は死ぬかも知れん、容體は頗る危險だと明したる時に、遂に思ひ切つて、絕念の爲と、下なる祖先の室に降りて、其處から彼に曾祖母が遺愛の鏡を持つて來て遣つた。彼女は其れを見ると嬉しさうに微笑み、手に取つて接吻し、吸付いて了つたかのやうに瞶めてゐる。

其れより今はもう十年餘も過ぎたが、彼女は未だ猶且、其鏡を愛して瞬間も離さぬ。

「是が私だらうか?」と、彼女は呟いては、其顏に此上ない幸福と、此の上ない歡喜との樣子が、紅色に燃えてゐた。「さうだ、私だ!此の鏡が本當なのだ、他の鏡はさうぢやない、人の言も當てにやならない、夫も猶且噓を云つてゐるのだ。あゝ若し私が此れを疾うに知つてゐたなら、若し實際私が恁う云ふので有ると知つてゐたなら、何にして這麼人に嫁るものか、餘り私には不適當な夫だ、私の足下には、立派な、美丈夫な義騎も俯伏すのであつたらう!……」

或時余は妻の後に立つて、不圖、此の魔鏡を覗いた所、解つた、解つた、初めて大なる秘密が讀めた。鏡に寫つてゐる其れは、余が妻ならぬ、未だ且つて見たことも無いやうな絶世の美人が立つてゐた、何と云ふ奇蹟。艷麗と、壯美と、愛情との調和て有つた。然し其れは奈何云ふ理由か?何が生じたのか?何故に余が醜婦なる妻は、恁くも絶世の美人に鏡に寫つてゐるのであるか?何の理由なのであるか?」

其れは恁云ふ譯てある。凹凸の鏡は余が妻の顏を四方に歪ましたので、畢竟彼女の顏立の、眼、鼻、口許などが、恰度好く場所換をしたのであつた。て、其の顏が全く偶然に恁く美しくなつたのに過ぎぬ。マイナスがマイナスに合し、プラスと化したのである。

今、余は妻と鏡の前に立つてゐる。而して、ぢッと鏡を瞶めてゐる。余が鼻は左の方に曲り、頤は二つになつて片方に引付けられてゐる、然し妻の顏は奈何したと云はうか。一見、恍惚たらざるを得ぬ美しさ。狂せるやうな、無智なる熱情は、此の時忽ち余が心を占領した。

「ハヽヽ、」と、余は馬鹿氣た笑聲を出してゐた。

「何て私は美人でせう。」と、妻は微に、やッと聞取れるやうな聲で云つてゐた。

隱れたる徳

齋藤吊花

一

宿の老農が自分に向つて「肥料の浸みた田と新墾とは素人眼には解らぬが、秋の收穫も大變な差がある。我等の眼には肥料の入つた土壤の好わしく、ひく〳〵した田地と、瘠せすぎ、肺病患者のやうな田圃とは直ぐ解る。土性が好くても、永年の荒蕪て、鍬一つ入れない土地は幾何好い種を撒ても花も實も見すぼらしい。」と、この事を郡家の和尙に話すと、土地ばかりではない。人間も其通りおや德を積んだ家柄は、自づと光があつて、其功果は、子孫に現はれる。と云はれたが全くでございます」と厚い唇を反して正直相な眼を光らして云ふ。

「早い話が村にも、其例がある。あの新家の俄分限、慾て張つた面の三枚張には、人の離義、世間への義理、御國の義務、其樣なことは頭から刎つけて見向きもせぬ。國の爲よっ家の大黑柱が大事ぢや。と勝然に、盲滅法狡猾ことの有丈を悉してやつと蓄た財産が、息子の代に見さつせい、太い大黑柱も出入りて、瞬く間に人手に渡つたが、橋詰の媼さんの家は、一代の根氣、辛根、媼さんが六十年の肥精の實が、あの立派な議員樣を生みあの美しいお嫁さんが出來、お剩に珠のやうな太郎坊ちやん、今年亦早々にお芽出度があるといふ。六かしい學問は俺等には分らぬが、この近い證據が第一」と、膝を進めた。

自分は此村に來たのは、病後の保養の爲めて、既一週間以上も、この山麓の百姓家に宿泊て居る。老人とは懇意に成つた。彼はお陰て俺も大分學問が出來たと喜んてゐるが、自分は、我等の淺い經驗が云はする空理より、彼が事實を以つて我等の心を啓きくれた深い教育に感謝する。

▲おめて塔

一陽來福、目出度新年を迎へても、硯机上相變らずうづ高きは原稿と新刊書。これが塔のやうだとは如何てせう。扨て解始めと致し京橋南小田原町の獅子吼書房から發行された『名家書翰集』を紹介しやうと存ずる此書は遠くは法然上人、日蓮上人、豐臣秀吉、德川家康等より、近くは森田節齋、佐久間象山、入田知紀、西鄕南洲、大久保利通等諸氏に至るまでの書翰を死歿の年次順によつて排列してある。且つ各方面の人物にわたりて材料も蒐集してある。俳人もあれば歌人のもある。且つ讀み惡いものに振假名の付いて居るのは親切てある。定價は六十錢、紙頁三百六。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

印度土產お伽噺　義烈の少女（一）

巖谷小波口演

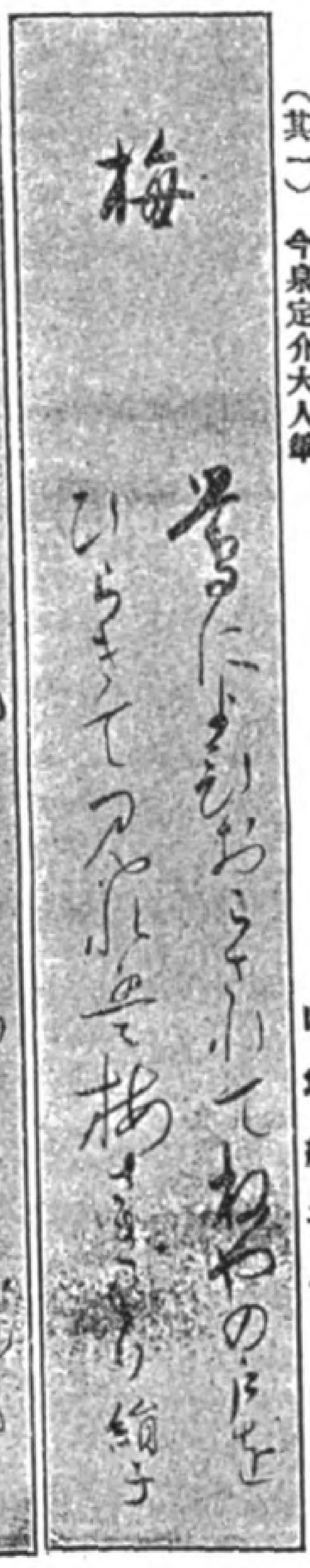
印度の國「カルカッタ」と云ふ都市は、かの名高い天竺の流砂河、即ち當今では「ガンヂス」と云ふ大きな河を控へた繁華な町であります。英吉利西の領土となつてから、此地にも守備隊が置いてありまして「テニソン」の歌てかねて御承知になつてをります龍騎兵、聯隊が守備の任に當つてをります。聯隊長は近頃昇進されました「ホルブリッチ」と云ふ中佐て、至つて部下や一般の居留民から評判の良い方でありました夫人「エリヤ」との間に二人の子供がありまして、姉は「ルチー」と云つて十一才て、弟の「チョージ」は八才の可愛い盛りて御座います。中佐の住居は町外れて練兵場を前にして、廣いところてありまして、後方は「ガンヂス」の流に臨んでゐる、景色の良いところです、家は瀟洒した木造てありますが、庭はなるたけ廣く、樹を澤山植るやうにしてあります、御承知のとほり西洋風の芝庭ては、日光の照射が烈しいので、この熱帯地方の庭園としては適しません。椰子や「マンゴー」や「バナヽ」のやうな大きくなる樹を植えて、日蔭をこしらへる必要があるのです。それて間にはいろ／＼の草花を花壇仕立にして眼を慰めるのです。中佐の庭園もこの通りにして、家の周圍には澤山な樹が茂つてゐて、熱い日光を遮り、熱帯地方の夏の最中でも、涼しい風がそよ／＼と吹いて、實に愉快な心持がいたします。これ等の樹は涼しい日蔭をつくるばかりてはありません。殆ど四時絶えずに美味い果實が實ります、熱い土地てありますから、渇も非常て御座います。そう云ふ時に水などをうつかり飲うもんなら、忽ち悪い病氣にやられるのてありますが、新しい汁氣の澤山ある果實を喰べてをりますれば、渇も止みますし第一「マラリヤ」性の病氣に罹ることがありません。誠に一擧兩得とでも申しませうか、これも全く天與の幸福て御座います。

ある日のことて御座います。近頃世間は極穏和て御座いまして、印度にはたびたびありました革命騒…、まあ一時吾臺灣に御座いました土匪と云ふやうなもの…、尤もこの印度に御座いましたのは宗教の相違から起りましたのが重て、二三の者どもが無智の愚民を煽てまして、表面に印度本國を英國の手から離して、獨立の立派な國にすると云ふので御座いますが、實際はそんな大したものてはなく、斬つた撲つたの騒動の間に、良い金儲をしやうと云ふ、火事場泥棒的の一揆て御座いますから、今迄何遍起つても、それが漸く一地方の一部分のことですから、直ぐ鎮壓されて了ひます、のみならずそんな事から、ます／＼英國が印度土民を壓迫する程度は强くなるばかりて、人民の困難はいよ／＼増す一方になりました、さてその騒動も近頃はないものて御座いましたから、丁度今日は「エリヤ」夫人の誕生日と云ふので、中佐のお邸では極懇意なお客を招きまして、宴會を開きになりました。聯隊附將校や居留民の重立つた者どもが、夫人同伴てかれこれ四五十人程の來客て御座います。大廣間の食堂て一寸立食か何かゞありまして、それから庭園の凉しい處て、程よく配置してあります休憩場て、來客は三三五五小な卓子を圍んで愉快に談笑してをります。中佐夫婦はその間を往來してお客をそらさないやうにしきりと英國風の交際振手腕を示してをりました。

何の家ても宴席に子供は邪魔物としてありますもので、中佐の家ても今日は可愛い小供ですが、兩人ともお客の前に出しません。姉弟兩人は二階の一室て穩和しく遊んでゐましたが、午後になつてから裏の庭へ出て、花壇の間を走り廻つてをりました。傅母には土人の少女「マリヤ」と云ふのが、姉弟のお氣に入りて附いてをりました。この少女「マリヤ」と云ふのは、前年中佐夫婦から必死の場合を助けられて、それからこの家に養はれてをるもので御座いまして、中佐夫婦を親とも主人とも思つて大切に忠實やかに仕へてをるもので御座います。一寸その必死の場合を助けられたと申す顚末を摘んてお話し致しますと、この「マリヤ」と申しまする者はもと「アミナ」と申しまして、印度の「デルヒー」と申しますところの在のもので御座います。親は可なりに暮してをりますもので、幼少い時から手の内の珠と寵愛されて育てられました。然るに不幸なことには「アミナ」の六才の時、母親は不圖した病から次第に重くなりまして、到當可愛い娘を後に殘して歸らぬ旅へと赴きました。父親も當座は「アミナ」が可愛いからと申して後妻も娶らずにをりましたが、まだ老朽ちた年齢てもなし、去るものは日に疎とやらて、勸められるまゝ二年程して、再び後妻を迎へました、初めのうちこそその後妻も「アミナ」を可愛がつてをりましたが、その中自分の腹に引續いて二人の子供が出來ました。さあ、かうなるとよく世間にあることで、そろ／＼繼子虐をするやうになりました。實に太だしい心得違のことて御座います。さて少女「アミナ」は野蠻國に生れて、敎育のなんと云ふ左様結構なものをうけたとは御座いませんが、生得て御座いませう。兩人の弟妹を可愛いがりまして、父母にも良く仕へ誠に感心な娘てありました。それに生來容貌も美しいものですから、近隣の褒めものとなつてをりました。

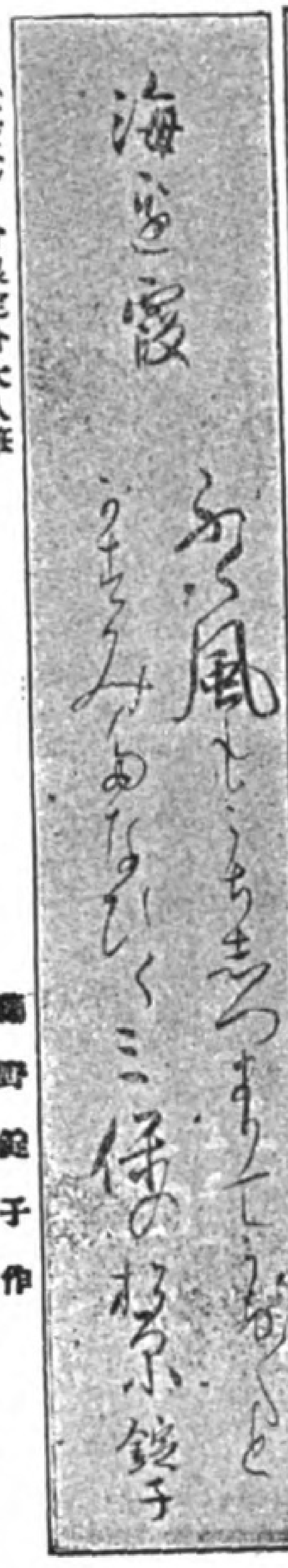
續聞秀百佳選

（其一）今泉定介大人銓

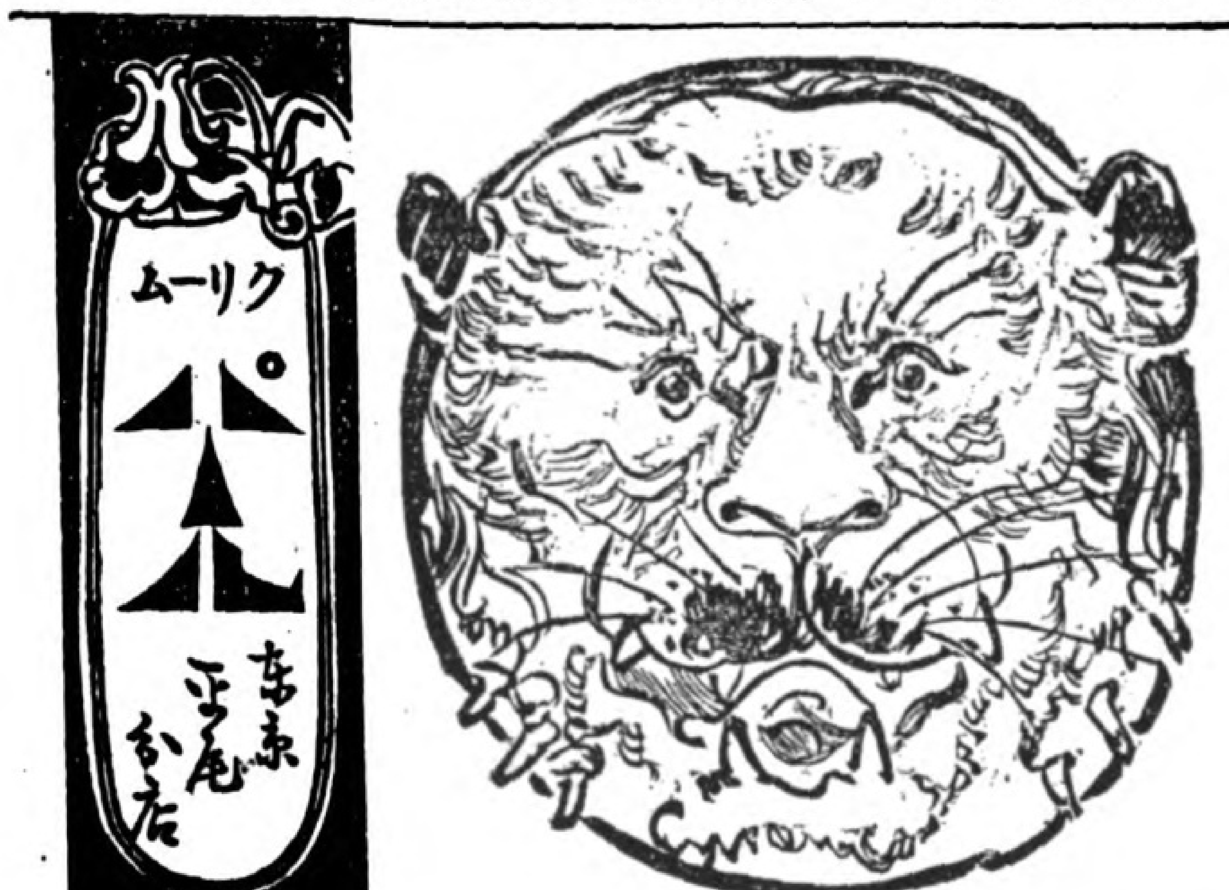


梅　山地絹子作

（其二）今泉定介大人銓



海邊霞　藤野鋭子作



東天紅と　告け渡る
鷄の聲さへ　今朝さへて
さやけく聞ゆる　心地よき
その快き　樂みを
常に享けんとし　給はゞ
容姿麗しく　心地よく
花の顔　すが／＼と
心春めき　爽かになす
乳白化粧水　「レート」の
常用を　怠り給ふな

●定價小瓶參拾錢●大瓶五拾錢
●特別大瓶壹圓
●レートは至る所の和洋小間物店及賣藥店に販賣せり
●僞物あり「發賣元平尾贊平」の名義に御注意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

歌かるたの話（上）

つくば

△歌貝——歌合——繪合——貝合

歌がるたは目下非常な勢で流行つて居ますから、どんな邊鄙な片田舍でも知らぬ方はありません。がそんなら歌がるたとは如何云ふ意味か、又如何して出來たものかと尋かれたら如何てせう。恐らくは滿足に御答の出來る方は無いだらうと思ひます。其處で些し許り御話をするのてす。御承知の方は向ふをむいて被居つしやい。

さて歌かるたは如何して出來たかと申しますと、此れは昔からも種々の說を爲すものが御坐いますが、矢張り往昔の歌貝の發達したものと見るのが、穩當のやうて御坐います。

歌貝は又貝合せとも申して、中古婦人間に行はれた遊戲て、之は三百六十個の美しい貝殼を、程よく分配て、地貝と出貝を合せるので御坐います。その後貝の裏に繪や歌などを書いて、合せる方法も出來たので、此れ等が歌がるたの起因てムいます。

△カルタは田舍詞にあらず

然らば何故歌がるたと申すかと云ふと、これも昔から種々な事を立派な學者達が論述じて居ますが皆當つて居りません。カルタは和蘭の言葉て、札の事てあります。てすから歌がるたは、歌を書いた札と云ふやうな意味なので他に六ケ敷い譯はムいません。

それを有名な貞丈翁の如き學者てすらカルタと云ふものゝ象したるが故に、歌がるたと稱したるならんも、そは田舍詞なり云々と云つて居りますが、決して田舍詞てはムいません。昔は外國語が弘く行渡つて居なかつたから、自然斯樣な間違もあつたのてムいませう。

△歌がるたの種類

歌がるたの由來は前の通りてすが、種類が又仲々澤山あります。

古今集、源氏物語、伊勢物語など皆その歌を暗誦する爲に、弄んだものてす、てすから漢學の隆んな地方ては、唐詩選も三體詩も皆かるたになりました。而し現今は凡て衰へまして、唯小倉百人一首が獨占と云ふ有樣てムいます。

△小倉百人一首

は如何して出來たかと云ふと、只今迄の說ては藤原定家卿が、小倉の山莊て選んだもので、有名な小倉の色紙に起つたものであるとしてムいます。小倉色紙とは百人の歌を各一首宛、百枚の色紙に書いて置いたものを云ふのてす。

處が之にも說があつて、いや左樣ては無い。其樣ことは嘘だと云ふ人もあります。一例を擧ると、これは定家卿の選にあらずして子爲家の妻の父なる宇都宮賴綱か嵯峨に別業を營める時、其障子に貼る爲に染筆を定家卿に依賴したもので、最初は百首あつたものか如何か判らないと申すやうな譯のもムいます。

定家卿の事蹟や小倉山の話は、今更私が申し上げる迄もありませんから、凡て略して之から歌がるたの取り法に就て申します。

鳥居强右衛門（一）

大島光利口演

新玉の春を迎へ一陽來復萬里同風と壽ぎ祝しまして、さて今回當愛國婦人の誌上に御餘興として講話を揭載致しまするは眞に光榮の至りと存じまする。

憶ひ起せば隙ゆく駒の足掻き迅く、去年は申の歲とて諸國に大火あり、或は惡き事のみ打重なりしも、夢と經りて酉の歲を迎へたのてすから是よりは吉兆期して竢つべして御坐います。

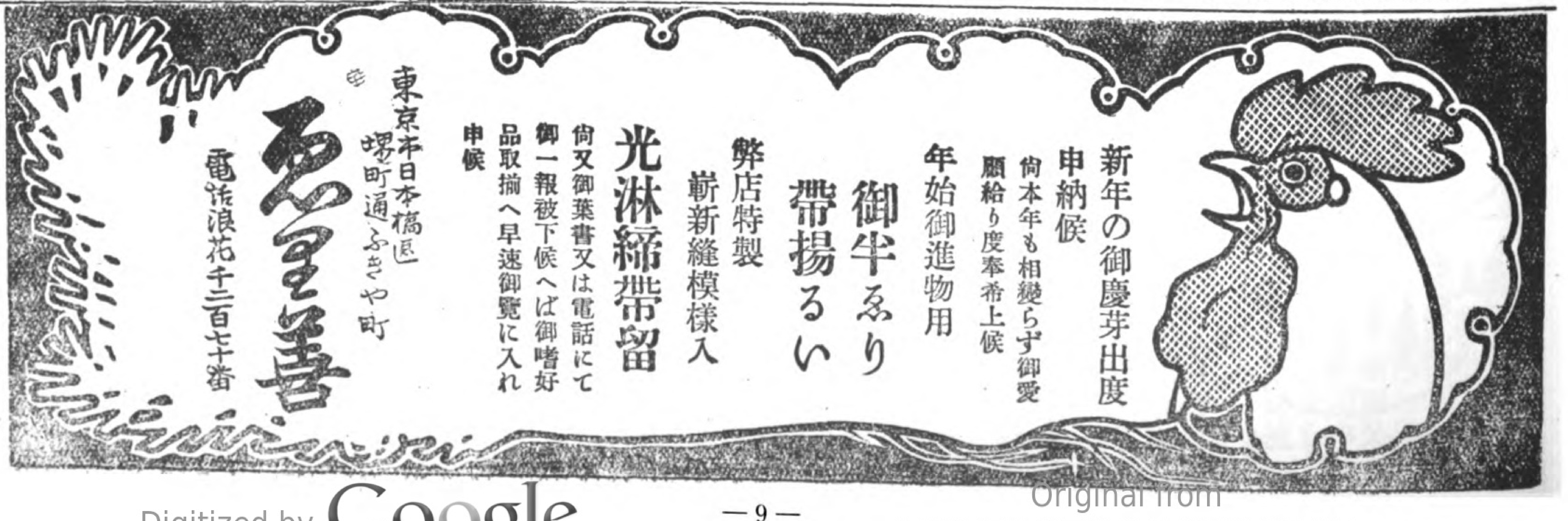
何故ならば酉取なぞの意味は槪て緣起を祝するもので、利益を取り、國を取るなぞと申し、又士農工商の第一たる武士を弓取と云ふも聊か因ある事で御坐います。その武士の後援たる我が受國婦人會の如きも只今ては會員の數殆んど百萬にも垂んとして居ります。誠に慶すべき事て今回は弓取の中にて、忠義を重んずる金鐵に比しく、身命を輕んずる鴻毛の如く一身を犧牲に供して敵の大軍を破つた、鳥居强右衛門勝高の功績を、酉歲に因んて、演述やうと思ひます。

抑々鳥居强右衛門は三州長篠在野田村の郷士にして母は年若き頃武家に宮仕を爲し武士の筋目も正しく女禮式に渡り、薙刀も心得、至つて雄々しき氣象の婦人て御坐いますから、邊僻の村洛に嫁すると雖も、婦人の鑑として衆人に賞美られて居ります。

されば今度長篠の城には奧村九八郎貞昌公、五井の松平彌九郞殿と共に、籠城して甲州の大軍を引受け戰を挑まれる前に母は强右衛門に向つて申すやう「如何に悴、御身母に對して孝心厚く常に優しく仕へくれるは、いと嬉しく思ひはべれど、餘命もあらぬ老の身なり、心にかかるは汝が行末のみ、さりとて大祿を貪り彌榮よと云ふにあらず、公に仕へて精忠を盡くし、世の爲信義を重じ、あはれ健氣の武士よと人に賞たゝへられなば、夫ぞ死したる後に此の母は、草葉の陰にて快よく、名僧智識の御會向に彌増して嬉しく受申さん、必ず〳〵目前の名聞になづみ、一身の榮華を望むべからず、大の蟲を助け小の蟲を殺すと云へば、數ならぬ一身の絡らば絡れ、玉の緒の絕なば絕よ、夢々名を下し、他に笑はれまじと心得たまへ、御地頭奧平樣の如きは初め甲州の武田信玄公に仕へ、此三河の國に在せしも、悲しや信玄公逝去せられし後は、甲州の政事亂れに亂れたれば、所詮天下を治め給ふ御器量は、現御主君四郞勝賴殿にはおはしまさずと見限り、今德川殿と心を合せ、長篠へ楯籠ると聞、御身奧平家の緣を食まずと雖も、領地に住ひ長らく母を養ひ、今日に至りしは皆之御地頭の恩ぞかし、必ず〳〵一身の安全を圖らひ、田を耕し畠を打つべき時にあらず、幸ひ力拔群にして衆に勝るゝは母もよく知る處なり、さは去ながら腕の力は賴むに足らず、心の力を能强めて一日も早く御城內に馳參じ身分相當の御奉公をも願ひ、一朝味方危しと知らば、一身を拋擲ち主家の爲に忠を盡し、其身は死するとも未代に美名を止る事を心がけよ人生れて喜べば土は出て悲み、人死して悲しめば土は之を喜ぶとかや、限りある命を以て限りなき色慾等に耽り、山なす黃金に誇るなぞは娑婆に生れし人間の眞味を知らざるものと思ふべし。名こそ惜しけれ大丈夫は死後の譽を重じて、時に臨んて命を惜ざるものと知り給へと申し聞かせました。

△おめでとう

おめて增の第二として博文館から發行された家庭百科全書第十編の「惣菜料理」と同じく第十一編「漬物指南」の二冊を紹介したいと思ひます。惣菜料理は赤堀吉松同峰吉同菊子三氏の共著、三氏は宮內省、女子大學、東京女學館のそれ〴〵庖丁家なり敎授家なりてあるから斯道の此上なき有益の著述と見て宜しい。また漬物指南は女子技藝實踐學校調物料主任三木とみ氏の著てあるから、これまた他に比類なき立派な著述てある。殊に兩書とも手近い、容易に出來る、家庭に主婦たり令嬢たる人々の試みやすいことから順を追ふて記されてあるのは嬉しい。定價は孰れも四十五錢の廉價。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

▽**新しき年、新しき覺悟**　八聲の勇しき聲諸共明け渡れる酉歲の朝風は、新しき年こそ來つれの喜の音信と共に「今年こそは」の新しき覺悟を囁き來る。この囁きを受納ると否とは唯この心にあり。その心とは――水か嵐か知らねども、今日の務に田草取るてふ――その心なり。申歲の歲旦に當り「やまざるの覺悟」を發表せる吾人は此酉歲に於て「とり」（圖利）の二字を念頭に掲げて一年の旅行に門出せんとす。但し圖利とは私利を圖るの意にあらず愛讀諸姉の利益を中心として愈々業に忠實ならんと欲するに在り。諸姉の爲めに利を圖るの道、實に多々あり。その案吾人の胸に充滿せるも、漸次その案を發表して諸姉の敎を乞はんと欲す。新しき年の首に於て敢て新しき覺悟を述ぶること斯の如し。

▽**新年繪附錄に就て**　新年繪附錄として皇太子殿下、同妃殿下兩殿下の御眞影を本號に添えたるが、右は愛讀諸姉平素の愛顧に酬ゐんが爲め、特に東宮御所に申請、その筋の許可を得て最近の御撮影にかゝる分を本誌に掲ぐるの榮を得しものなり。諸姉に於かれても希はくは我が發行所の微意を諒せられ、各家に丁重に珍藏せられんことを敢えて願ふ。

▽**勅題雪中松**　に就き佐々木信綱大人の物語れる要を撮めば「雪中松」とありますから何うしても翩翩と雪の降りつゝある處か或は雪に埋れ果てた松かを詠まねばなりますまい。「雪後」とか「松上雪」とか云ふやうな題と照し合せて見ると、「雪中松」は何うしても狹まく解釋する方が穩當かと思はれます。――私の意見を申しますより此處に古歌を御參考に申し上げませう。萬葉集に

池の上の松のうら葉に降る雪は五百重ふりしけあすさへも見ん

とあるのは雪の面白き所を詠だものです。古今集に

雪ふりて年の暮れぬる時にこそつひにもみちぬ松も見えけれ

は松の操を寫したものです。古今六帖に

白妙に雪のふれゝば小松原色の緑もかくろへにけれ

後選集に

松の葉にかゝれる雪のうれをとて冬の英とは云ふべかりけれ

此は雪の美しい處を詠んだもので、それは松の葉の尖の意味です。金葉集に

萬代のためしと見ゆる松の上に雪さへ積る年にもあるかな

新古今集に

歲晚の雪であります。

此頃は花も紅葉も枝になししばしな消えそ松の白雪　（下略）

▽**高等裁縫講義**　を我發行所にて豫約出版する旨廣告せし處、非常に諸姉の同情を得、先日來日々數名の申込者あり、また代金を送らるゝ向少なからざるは所謂時期に投せる出版物なるが故なるべきか。因に記す右講義は東京裁縫女學校長渡邊辰五郎氏の遺稿にして「書物に依りて實地に裁縫の出來るは此講義の他になし」との定評あるものゝ由。尚豫約特價は金七十錢、郵送料東京市內四錢、其他は八錢。菊判五百五十頁、豫約申込者一千人に滿つるを待ちて出版に着手すると。

▽**女學生の多き米國**　新たに歸朝せる大橋博文館主の歸朝土產ばなしに、我國にても此數年來女子の用途頗る增加せるが歐米に在りては女子の用途殊に多く、給料は七十圓より百五十圓位の月收を得ることゝて其俸給を以て嫁入の費用、持參物などを調ふるものゝ由。然して其年輩は十七八歲より廿五六歲位のもの最も多しと。就中米國は一般婦女子にても幼少より獨立自營の氣風に富み年頃にもなれば餘程家計豐かなるものゝ他は殆んど何かに從事する有樣なれば從つて女子の常識は頗る發達し居れり。斯の如き有樣なれば男女間の交際は自由にて結婚の如きも本人の意志にまかせなれども些の醜き間違ひなどなく殊に同國の女子が其終生苦樂を共にすべき良人を撰擇するに就ては結婚の自由なるだけ且常識非常に發達し居るだけに深き注意を拂ふ事とて結婚後我國にて多く見る後悔ゝ嘆聲を耳にすることなかりしが斯の如きと國情異れる我國に移さんには一層の考慮を要することなるべし。云々。

義狐三吉（一）

村華生

記者の同鄕に石原平右衞門といふ人があつた。舊藩時代には代々家老をも勤めた家柄で、今でも馬場町に廣大な家屋敷を構へて居る。數年前まで記者の一家はその隣家に住んで居た上に、祖父とは年來の碁敵であつたので、平右衞門氏も每日のやうにやつて來る、記者も祖父に伴られては、始終同家に遊に行つたものだ。

道が一藩の家老をも勤めた家柄とて、住宅の構造なども頗る立派であつた。五千坪にもあまるべき庭園の東寄りには、廣い大きな池があつて、淸水が滾々として湧いて居る。もとは噴水仕掛であつたさうだが、記者が遊びにゆく頃にはそれはなかつた。瑠璃色した池の面には、尺にもあまる緋鯉、眞鯉、さては美しい金魚が幾百となく列を正く遊泳して居た。五月から六月にかけて、池の周圍は一面に花菖蒲で飾られる。石原家の花菖蒲といへば、城下で唯れ知らぬ者なき程有名なもので、每年花時になると舊藩主もお出でになる。同時に盛なる花見の宴が此の庭で開かれる。――裏山の森には鷲の巢がいくつもあつた。中に最も少年時代の記者の心を惹いたものは、裏山の中腹にある小さな石碑であつた。形ばかりの自然石に、お家流の文字で『義狐三吉之墓』と彫つてある。石碑の面には青苔が一面に生えて、角々は削り取つたやうに圓くなつて居た。記者の好奇心は常に此の見るかげもなき石碑に鍾つた。――此の石碑に就いて言傳へられてある一場の物語が、しかく少年の心を動かすに足るものがあつたのである。

東京　平尾分店　スミレ香水

百科大辭典の活用

いかに好き辭典ありとも活用させて見なければ、更に其効用を知ることが出來ぬ。三省堂の『日本百科大辭典』は完全だと云ふので頗る評判が好い。が、此評判通り果して活用に適するか何うか、その活きた證據を發見する爲め活用して見やうと思ふ。年の首のことだから、えと（干支）と云ふ語を引いて見ると。曰く

えと（干支）十干十二支の併稱。干支は幹枝の義にして、これを「えと」といふは兄弟の意に出づ。十干は甲乙丙丁戊己庚辛壬癸をいひ、十二支は子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥をいふ。十干には陽干陰干の二種あり、陽を兄（エ）、陰を弟（ト）とす。即ち甲丙戊庚壬は兄、乙丁己辛癸は弟なり。後これに十二支を合せて「えと」と呼ぶに至れり。委しくは「かんし」干支の條を見よ。

とある。未だ第二卷以下が出來ぬので「かんし」の部は引くことが出來ぬが、以上干支の說明は實に巧みに要領を盡して居る。次に出て居る「江戶」の條なぞは二頁に渡り詳を極めて居る。しかも一頁大彩色入江戶古繪圖の挿んであるのは嬉しい。尚又本書挿畫の精巧を示す爲め伊藤理學博士撰「薔薇科植物」の圖を本誌に挿んである。が、小さくはあるし、彩色はなし、原物の十分の一の面影もないと御承知ありたい。

謹賀新年

本舖　井善

年始御進物用壜詰品々

衣裳洗濯　髮洗ひ

あらひ粉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

—新年雜詠—

大口鯛二選評

甲　岐阜　小島駒子

をさなごが重ねし年をゆび折りて數ふる親やたのしかるらん

評曰、この親の樂しみげにかぞへつくしがたかるべし

乙　山口　末田竹子

新しき暦と共にひらけけり年をむかへし軒の梅が枝

評曰、趣向は新らしからねど調よくととのへり

丙　東京　塚原智惠子

少女らが羽子つく庭の梅の花初日に笑みて匂ひおくりぬ

丙　愛知　石川るい子

新玉の年のはじめにうからやからことほぎ酒は千代の香ぞする

丙　岡山　西村清子

たみ草の祝ひたてたる門松にしづけくつもる今朝の白雪

秀逸

もろ人の心の花も匂ふらん年立ちかへるけさののどけさ　石川　山本篤子

うらゝかに昇る初日のかげさして風のどかなる君がみよかな　神奈川　足立原とく子

若水をくみつゝあふぐ大そらのいろもあらたに見ゆるけさかな　堺市　金田つるえ

笑ふ聲となりにもまたきこえけりおちもましりてかるたとる夜を　福島　篤田よしの

一年の計りは今日にありときく夢おこたらじいで今年より　京都　加藤くれなゐ

山里の鶏も長閑にうたふなり御代をことふく門松のあたり　金澤　まさを

こともなくおやのみもとにはらからと年かさねたる今日ぞ嬉しき　東京　宇佐美こま子

寸

少女子が黒髪とくと朝ごとにくみし岩井もしめかざせり　京都　つゆ紐子

朝毎にのぼる日影もあらたまの年立つ今朝はことにぞありける　岡山　清水梅子

かしこくも去年たまひつるみことのりひとふしうつす筆初かな　三重　西山ひさえ

とよとしのしるしをみせて折よくも年のはじめにゆきぞふりける　横濱　鈴木松子

年のたつあした靜けき二重ばしいとたふとさにをろがみまつる　三河　山内經子

あたらしき年をむかへて我宿の朝日に匂ふ梅の初花　三重　荘司種子

ほど〳〵に都大路も山里も年の初日を祝ひこそすれ　三重　庄司みや子

老いたるも若きも共に嬉しきは年たちかへるあしたなりけり　山口　末田貞節子

やり羽子のそれてたもとにふれにしをほゝゑみてゆく廻禮の人　廣島　金原なを子

俳句

—新年雜詠—

內藤雪鳴選評

天　京都　つゆ紐

門松に人耻しや烏帽子ぶり

評、斯くてぞ安心

地　三重　西山ひさえ

實朝の墓にたばしる霰かな

評、悲壯はこゝにも

人　三河　石川類子

いとこどち火桶を中に雪見かな

評、景あり情あり

秀逸

元日の夜はいはけなき遊び哉　東京　小田ゆかり

鎌倉は松風たかし冬の月　東京　鶴岡とく子

夜興引や西鄕殿に似たる人　三重　西山數子

もちもなく笑て過ぎぬ松の內　下野　黒須菊子

鉢叩鉢を霰に打たれけり　備後　世良龜子

初霜や干し忘れたる衣の上　東京　彦坂たき子

行人の足音はやし冬の風　横濱　鈴木松子

雪晴れて松一本の眺めかな　京都　加藤くれなゐ

落葉して日當のよき小窓哉　東京　美笑子

春着た人もまじりて年の市　三重　荘司種子

茶の花のこぼれし畦の道祖神　東京　藤野靜香

雲は皆西に飛びけり冬木立　東京　關根千代

近よれば鳩も群がたり若菜摘　加賀　素玉

寒菊の淋しさ知れよ裏畑　東京　栗山てい子

木枯のかざしの笠をうばひ鬼　美作　清水梅子

齋をよくす老僧ひとり冬籠　岡山　坂田元子

近世風俗志を讀む

末摘花

▼珍聞中の秘本に守貞漫稿と云ふのがある。先年非常な高價を以て、帝國圖書館に買上げられたので、當時隨分涎を垂した藏書家もあつたと聞いて居る。

▼その守貞漫稿が今度國學院大學の出版部から、近世風俗誌と銘打つて出版された。

▼守貞漫稿は幕末の人喜田川季荘の草稿で舊幕時代に於ける、時勢地理、生業返貨から男女の扮粧、服裝染織の變遷、華街狹斜の風情、歌舞音曲、四季の慣例、日用の雜具、童謠、遊戯等に至る迄、前後三十五卷に修められて居る。

▼舊幕時代三百年間の隨筆小說等は、概ね文華燦爛たる貞享元錄の頃に産れたもので、海內漸く多事ならんとせる文化文政以後に至つては、頗る萎靡不振の觀がある。

▼守貞漫稿は此點に於て、重要缺くべからざる參考書である。本書は殊に文化文政以後の情況を細叙する事に努力したらしく、その說明懇切を極めて居る。

▼過般珍本鹽尻及國文註釋全書等を出版して非常の好結果を得た、國學院大學が此珍書を選んで出版したのは、誠に當を得たもので、蓋し異彩ある出版界の美擧と思ふ。

▼見るにも足らぬ駄本が大法螺吹いて横行する今の出版界に、此の樣に趣味と實益とを併有した書籍を得て、自分は近頃になく溜飲を下げた。

▼苟しくも凡く社會上の高尚な趣味を味はんと欲するものは、必ず座右に備へなければならぬ。殊に歷史好きの人や文學好きの婦人は非是讀んで置かねば話にならぬ。

▼讀んで必ずしも通を振り廻せとはいはぬ。然し此書を見れば世上の万物万事に對して皆一角の通は振り廻せる。解り惡い所は皆挿繪で說明してあるから誰にでも讀める。詳細は廣告欄に就て知れたい。

國文註釋全書

第一卷　平家物語　同抄　同考證　平義器談　五武器談　以上合本卷　既刊

第二卷　太平記　同抄　同義　同實愚抄　同系圖　問答抄　盛衰記問答　合本　既刊

第三卷　源氏物語　花鳥餘情　河海抄　の卷　既刊

第四卷　枕草紙　枕草紙傍注　枕草紙抄　合本卷　既刊

▲以上自第一卷至第四卷一冊實價金二圓送本料金十二錢

▲第五卷源氏物語細流及同官職故實抄の卷　▲第六卷謠曲拾葉抄の卷　五六の兩書とも十二月出來

▲豫約價一冊金一圓六拾五錢送本料金十二錢　▲見本要二錢

隨筆珍本　鹽尻

原本寫本一百卷　菊版洋裝全二冊上下　再版出來　即時送本

紙數一千七百頁　五十音索引付

▲定價金六圓也　▲此際申込に限　特價送本料共金四圓に割引す

類聚近世風俗志

好評特價發賣

上卷插畫　江戶處女禮時の扮　帶地の字結び　黒の曙染の振袖なり

原名守貞漫稿　本書は東京帝國圖書館代價金八十圓にて買上られたる同館內貴重書中の一

隨筆珍書なり　挿畫一千五百以上　上卷出來　下卷本月半頃出來

上下二冊特價金四圓　送本料金二十四錢清韓地方は金七十錢なり

家庭讀物又は新年進物として上品にかつ興味あり　學者勿論

著述家役者其の吳服店染織家等の參考書として妙味有

賣捌　東京　上田屋　至誠堂　林平次郎　北隆館　東海堂　大阪　吉岡　福井　文德堂　名古屋　川瀨　京都　松田等

發行所　東京市麹町區飯田町五丁目八（振替貯金口座一三九九〇番）（電話番町五八五五番）　國學院大學出版部

謹賀新年

四十二年一月一日　玉寶堂

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮內省御用達　玉寶堂　電話下谷（特九六五番）（一二四四番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雪中松

各唱　但村はつ子　瀨高やす子　小田ゆかり　佐野くに子　つくば

其一

下萠えわたる若紫や
霞たつ小野の徑々小鹽の山に
けふを子の日と催し立てて
姫小松君が千代をば八千代に掛て
引くや綠の長きためしに
貴人の櫻がさねや花山吹の
御衣かさねて萠黄のうちき
紅の單袴にふむはあはゆき
袖に袂に消えてかつ摘む
雪ながら引くは若松散るは淡雪

—つゆ紐—

其二

低う垂れたる灰色濃雲に
音もなう白姫ぞ乘りて天降りぬ
大つぶ雪の狂ひや
みづえたわわに積りたる
姫松のなよ姿
埋れぬ半ば、更けし夜を
礎馳三里の小松原——さは寒からむ。
ああされど今朝あら玉の初日子に
はつかに見ゆる綠葉は
いよよ濃青の色さえて
白き被衣を脱ぎ棄てぬ

—やす子—

其三

花ならばなほすてましを
踏まく惜しき雪の園
たとはゞ檜もていとなめる
能の舞臺のたふとさよ
もの皆おなじ白妙の
松の姿のおもしろや
鶴の氅うちかつぎ
翠の袂ひるがへす
園生の竹の下折も
そのをりをりの皷にて
なほふりまさる泰き世を
松こそ舞ふに似たるかな

—ゆかり女—

其四

千代田の宮の松風の
調ゆかしき御濠には
浮ぶ鷗も初春の
うれしさ添ふる枝の雪
長閑きかなや今日の空
斑れに積るあは雪の
色ましろなる松が枝に
初日影こそ香に匂へ

—くに子—

其五

霙まじりに降る雪も
母の背なれば寒からず
ああ二十年そのかみの
夢ぞ戀しき。松並木
海道筋を夜とともに
罪人なれば只走り
母に負はれて逃げにしが
物買ふ錢も持たざれば
飢えて疲れて食みにけり
松が枝に咲く冬の花。

—つくば—

短文

二等　京都　つゆ紐

此身唯かくて永久にありたく候。眼に見ゆる一切の物此まゝに、耳に聞ゆる凡ての音このまゝに、更に胸にうつる有象無象皆此まゝに、此現在、唯これにて何物をも欲せず候、過去は云はず未來には何の執着も無く候、實に現在、是にて十分に候。

評、美貌の現存こそ殊に若人のねがひなるべし、

三等　美作　八木清子

お正月

學校へ登つてから初めてのお正月なので登坊は大喜び、朝早くから臥床を出て、鹿爪らしく禮服着けて、今日學校へお禮に行くと、密柑下さるから、母さん貰つてきたら一つ上げますよ。

評、登坊の得意思ふべし、

秀逸

新年　岡山　阪田元子

姉さん今日は新年だれと問ふたのは、今年六才になる弟の謙三である。謙ちやんは今年から學校へ入るのだれ、うむ行くのだ面白々々。今年の新年は面白い。と云ふて居ると、暫時たつても聲がしない。見れば母さんのお膝にもたれて眠つて居る。

元旦　東京　鈴木榮子

目出度く御雜煮を祝ふて、男子は年禮に出かける、店ではおめでたう／＼の聲が、しきりにきこえる。追羽子の音がする。やがて何處で上げたのやら、凧のうなりがブーンブーンと鳴つて、故しらず春の氣が身にせまつてくる。

お正月　佐賀　小林艶子

逆境にもまれ／＼て心のみ老じみたれど此月計りは昔の若さにて、羽子よ毬よと怪しう心浮き立ちて、身の程もわすらるゝたのしさ。げに正月なのみにぞ極樂ともいふならめ。

本號誌壇振はざること甚し。遺憾々々。

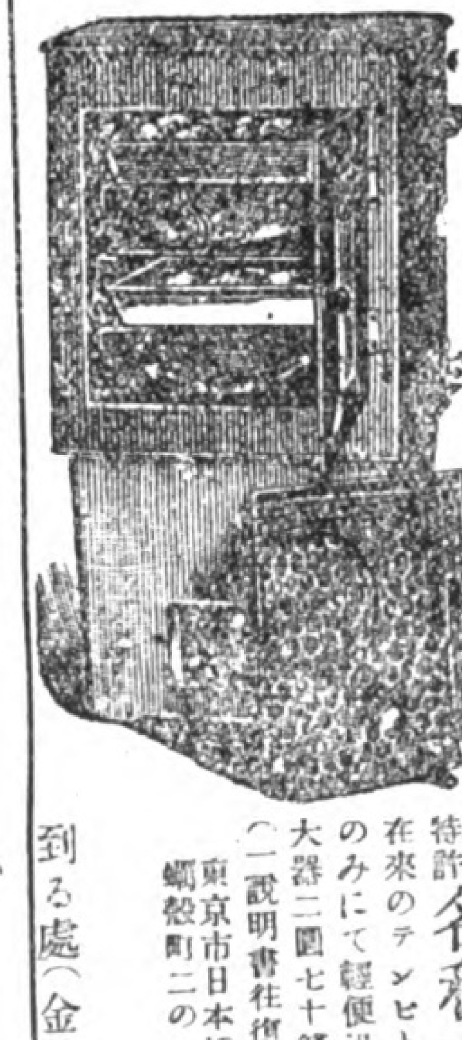
薔薇科植物　（三省堂百科大辭典所載）

内科専門　杏雲堂醫院　神田區駿河臺　電本一六六九　院長醫學博士　佐々木政吉

小兒科専門　腺病體質（瘰癧症）　小兒胃腸障害（脾疳）　腹膜炎（脹滿）　小兒皮膚病　ドクトル　メヂチーネ　長井岩雄　東京日本橋數寄屋町（吳服橋外）電本百八十

腦病　精神病　神經病　東京府下〇龜戸町　かめゐど停車場ヨリ約十丁　加命堂腦病院　電話浪花二五五二　院長　奈良林淺次郎

謹賀新年　世界好評



專賣特許　名和式蒸燒器（一名テンピ）　在來のテンピと異り頂上に火を要せず爐爐の火力のみにて輕便迅速に和洋割烹に最適當の器なり、大器二圓七十錢　中器二圓廿錢　小器一圓七十錢　（一説明書往復はがき）　東京市日本橋區蠣殼町二の一五　名和商店　電話浪花一七七一　振替貯金一〇二五四　到る處（金物店洋食器店）にあり

▲宇治茶直接小賣▼

拙家製品ノ眞價ニ就テハ世已ニ定論アリ左記手續ニヨリ注文ヲ乞フ

販賣手續

（一）無料ニテ注文シ送金ノ出來ル便法ハ御便利ノ郵便局ニテ振替貯金拂込用紙ト云フヲ受ラレ拙家ノ住所及ビ口座番號一〇〇四番等ヲ記シ裏面ニ御入用ノ茶名斤數其他ノ用事ヲ記入シ代金ヲ添ヘ差出サルレバ該金員等ハ直チニ拙家ヘ屆キマス故ニ早速物品ヲ郵送シマス至極安全ニ便利デアリマス此ノ用紙ハ拙家ヘ御申越アレバ何枚ニテモ送リマス

（二）品物ト代金ト引替ニテハ送品シマス故ニ御入用ノ茶名斤數ヲはがきニテ御申越アレバ直チニ代金引替小包郵便ニテ送リマス

（三）送費無料代價一圓以上御注文アレバ小包料ハ拙家ニテ自辨ス臺灣及清韓ト樺太ハ小包一個ニ付キ二十錢申受ク

經濟ヲ重ゼラルヽ婦人ハ一讀アレ

▲宇治茶製造元小包販賣ノ元祖　山城綴喜郡草内村　振替貯金口座番號　東京壹〇〇四番　大阪貳〇五五番　七碗堂　古川專太郎

謹賀新年　四十二年元旦　祝各位の萬歲乞培舊の御引立　七碗堂主　古川專太郎

婦人病専門　芝明舟町十九虎門ム宮樓前　電話新橋三三二四　院長　櫻井克己　櫻井醫院　院長診察月水金木前松田醫學士診察火土前窮者施診火木前入院診斷隨時應需　松田林兩副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院　東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）　電本八八八（病院用）八九八（私宅用）　院長醫學士　髙田畊安

南湖院　神奈川縣高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）　河野副長は目下當院に在勤院長診察土曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

婦人科産科榊病院　麴町三番町三三（電話番町三九五）　院長醫學博士　榊順次郎　婦人科産科毎日午前診察　副醫學士　久保徳太郎　婦人科的外科　外國留學中　副醫學士　田代謹二　婦人生殖器病泌尿器病及内科一般火木土午後診察　●施診火木土午後一時至二時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三省堂發行 日本百科大辭典 内容如何

時代の要求に鑑み碩學二百三十餘大家の苦心に成れる結晶體也九年間の拮据經營必しも三省堂の誇に非ず正に是れ學者の名譽を表題したる國の華也

▲秩序の整然▼

試にいばら（薔薇）の條を見んか、（一）薔薇の原名、その語原、各國各地の呼稱、（二）植物的の記事、花瓣、葉形、果實等、（三）その世界に於ける地理的分布、（四）その種類、歐米に於けるあらゆるもの、（五）薔薇に於ける文學、（六）日本の薔薇十餘種、（七）その効用、冠婚葬祭、香水、藥用、薔薇油等、（八）その繁殖法、（九）その培養法等あり。秩序整然として、薔薇に關するあらゆる知識を與へんとす、伊藤博士及横井博士の筆に成れるもの、本書三段二頁に渉り、數千言に及び、一々原名を歐文にて插む、加之最も美麗精巧なる薔薇科植物の着色石版畵ありて其説明を助く。

▲天下一品の插畫▼

試にいうびんきって（郵便切手）のプレートを見よ、明治の初年より現今迄發行せられたる諸切手並列せる中に、訝しくも十圓、五圓、一圓の三種には、殊に孔を穿てり。何が故に然るか、其の餘に精巧なるを以て眞に紛ふの虞ありとなし遞信省の命により斯る處置に出でたる也、これ製版者の技術巧妙の表徴とするに足る。

▲總合と分解▼

試にうた（歌）の條を見よ、その總説の爲に二段四十五行を費し、別にうたあはせ（歌合）三段七十八行を費し、うたうら（歌占）に二段四十八行、うたがき（歌垣）に二段四十四行、うたガルタ（歌骨牌）にカット入九行、うたぐさり（歌鎖）に二十三行、うたごくわいはじめ（歌御會始）に三段八十四行、新年勅題詠進の書式及沿革等を説く。其他歌合部類あり、歌爭あり、歌諷あり、歌謠あり、歌貝あり、歌口あり、歌會あり、歌祭文あり、歌澤節あり、歌淨瑠璃あり、歌説教あり、歌杖あり、歌念佛あり、歌川を姓とするもの丶人名あり、歌川派の系譜あり、苟もうたといふ語を有する主要なる事物は、悉く網羅せらる。此の如き題名の總合と分解とに於て、宛然文學の大博覽會たり、好學の士をして應接に暇なからしむ。

▲索引の懇切▼

X線に於て、レントゲン管、X線用誘導線輪の放電、エクス線にて撮影の裝置を、頗る鮮明緻密なる寫眞版に因りて説明し、別に靴を穿てる健康體の足、健康體の手、蛇の全身、木箱に收めたる小刀、膿毒症の肩胛部をX線にて撮影せるプレートを插入せり。その本文は最近の學説を紹介し、英佛獨の人名には悉く原字を插入し、頗る丁寧に頗る親切に説明せり。エツキス光線、エキス光線、エツクス光線、エクス光線、エツキス線、エキス線、エクス線、いづれにても引き出ださる丶やうに各別に題目を掲ぐ此の如く懇切に精密に編成の勞を取れるもの本書全體を通じて皆然らざるはなし。

▲本文とカット▼

アーチ（Arch）［拱］の項に於ては、カット第一圖より第四十五圖あり、本文すべて四ページに渉り、その説明を助くるに是等插畫を以てせる如きは、實に歐米の百科辭典にも多く見ること能はざる所なり。いかなる門外漢も、一たびこれを讀めば、アーチ建築の大要に精通することを得べし。四個の表とを掲げたり。これをしも懇切叮寧なる百科辭典といはずんば、他に何をか求むべき。

今古無比の大著日本百科大辭典の發賣法は出版界の信用を一層高むべき最良案として江湖の賞讃を博したるは弊堂の衷心感謝する所なり諸君は一時に全部七卷の特價四拾五圓を要するものなりと誤解し給ふ勿れ只僅に七圓（第一卷特價）を支出すれば直下に其第一卷を手にせらるべき事を考慮するに於て足れり事極めて簡にして而かも確實也

見本呈上　送料四錢

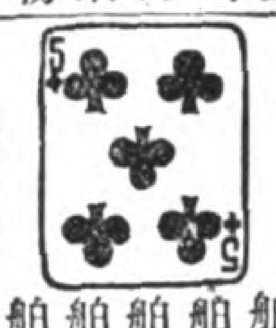
東京神田區　振替一五九七

三省堂書店

電話本局七二（長）三三一六、一七四九

惣金入蒔繪箱總付　金參圓
金裏蒔繪箱總付　金貳圓五十錢
張貫蒔繪箱紐付　金貳圓
張貫桐正箱紐付　金壹圓五十錢
五製　一號　金壹圓
仝　二號　金八拾錢
仝　三號　金六拾錢

舶來惣金ゴム引180　金壹圓五十錢
舶來ゴム引 98　金壹圓二十錢
舶來ゴム引 20　金壹圓
舶來ゴム引 16　金九拾錢
舶來ゴム引 11　金七拾錢

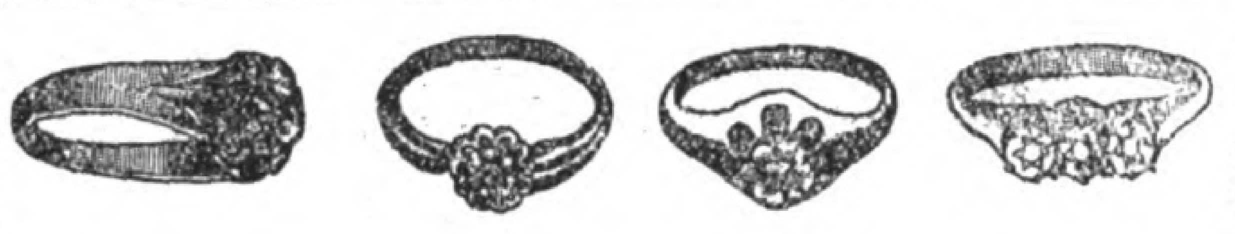


スペルリングゲーム（一名英語カルタ）

遊戯の首魁英語研究の早道
代金拾五錢（右送料いづれも二錢）
東京日本橋區馬喰町三丁目廿番地
骨牌問屋 **西村商店**（振替貯金一四五七五番）

新製寶石入指環

此指環は今回弊店が特に佛國より取り寄せたる各種の寶石を用ひて歐米新流行の意匠を採り多數に製出せるものなれば價格低廉にして精巧優美なり



眞珠三個入　十八金製 價金拾圓半　十二金製 價金六圓半
サファイヤ又ハルビー入　十八金製 價金七圓　十二金製 價金三圓半
新ダイヤ入　十八金製 價金六圓半　十金製 價金三圓半
オツパール入　十八金製 價金七圓半　十金製 價金四圓

御注文の際は指の太さを紙片にて御示し尚此外寶石二個以上入りのもの彫刻付等のものも澤山取揃へ有之候

東京日本橋區室町三丁目
官内省御用達 **金田時計店**
電話本局六九五番　振替貯金口座三五六六番

女子正則英語學校生徒募集

補缺生徒募集願書至急を要す規則二錢送る
神田錦町三の一警察向　女子正則英語學校

烏山内科院

院長 醫學士 烏山南壽次郎
京橋區鎗屋町十一番地　電話新橋千七百四十六番
午前診察　午後往診

岩佐病院　日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）

診察時間　自午前九時至正十二時

内科婦人科　院主　岩佐純
内科　院長 ドクトル　岩佐新
外科　醫學士　山村正雄
産科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髓病　醫學博士　土田卯三郎

化粧のもと

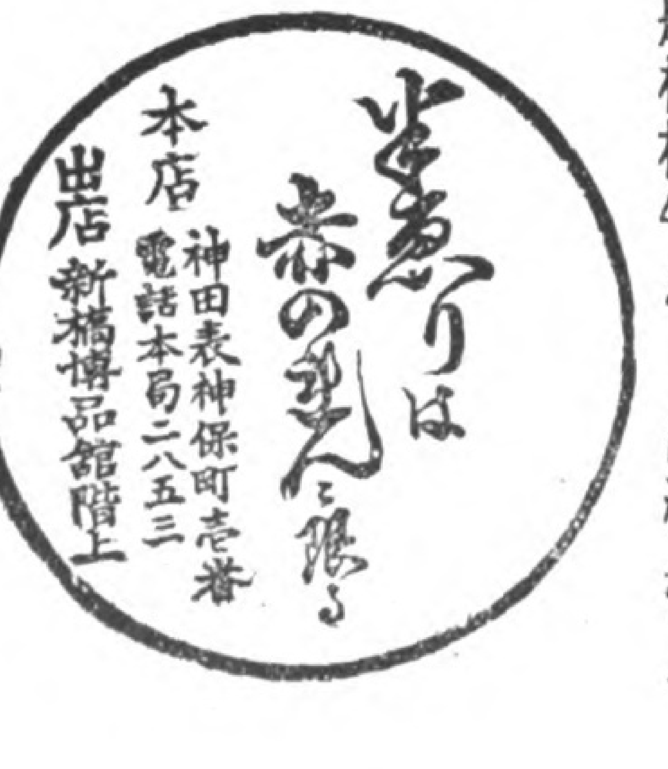
本書は衛生上修容上化粧の智識と方法を懇切に説明したるものにして家庭上化粧の教科書とすべき好著蓋し淑女諸姉の座右に缺くべからざるものなり

正價金六拾錢　郵税金八錢

發賣所　東京日本橋區數寄屋町　**六合館**　振替口座二三七二番

年始御進物用
御勅題模様半ゑり、帛紗、帯上、

恭賀新年



御年玉用品色々取揃へ申候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本月の九星

判者 酉童子

▲一白の人 此月上旬は散財多し、職業も閑散にして不如意の件あり。凡て纏まらぬ事柄多けれど、中旬以後は吉にして繁榮す。下旬は人の世話事或は散財多し、且目上の人と爭論するは凶也手足の怪我用心すべし。

▲二黒の人 上旬は万事不如意、中旬は利益あれど僅なり。凡て散財多き月なり。且つ目下の者より災ある月なれば用心すべし。方位は東の方吉なり。下旬は約束事破れ往々にして離儀を生ず。

▲三碧の人 初旬は無事、中旬は利益多く、下旬は目下の者を注意すべし。本月は物の縺れ苦情等往々發する月なり、盗難用心の事。

▲四緑の人 之まで永ひきたる事柄は纏る月とす。下旬は大なる目的を起さんとする崩し發す。手違ひなきやう注意すべし。且種々の依頼受け煩累に發成なすは後日悔む事あり。

▲五黄の人 三碧に仝じ。下旬は聊か口舌爭論の件あり、又は金談に掛合等の件發する月也凡て注意肝要なり、其他腸胃咽喉の健全を計るべし。

▲六白の人 初旬は不如意の事多けれど中旬は追々都合吉にして利益多き月也。下旬に至り一穫巨利を得んとする目的發する事あらん。此儀始吉にして後凶也。又上下和合せざる事あり自ら破れぬやう致せば吉也、其他媒妁等の世話事は、後患なきやう注意すべし。

▲七赤の人 上旬は上下の不和合を愼むべし、中旬は凡て都合吉にして利潤あり、媒酌其他あらゆる世話事多し、煩はしき件は殊に注意すべし。下旬は苦情多し貸或は契約等は用意周到になすべし。凡て人の意に乘り易き月なれば万事用心すべし。

▲八白の人 初旬は無事中旬は利潤多し、但し本業外の目的を起さんとする企望は、面白からず。下旬は散財の事多く又住所の件に付き苦勞あるべし。東方吉。

▲九紫の人 上旬は散財多し其他万事愼重に意を用ふべし、凡て吉凶混合の月なれば本業を守る方無事なり又自身親族にも病患注意肝要也、四方は大吉。

ちゞれ毛の人に告

二瓶一組小冊錢中五拾錢大一圓前金無送料代金引換注文は廿二錢申受、取次人申込該液劑は獨逸醫學博士の發明に弊店多年の試驗を加味せし新藥にて僅か十分間に染上り黒き光澤を發し美麗なるは鳥羽の如し而して永久禿げる事なく毛を切らず皮膚に無害なるは弊店保證す明細書は郵劵貳錢送れ

毛染所 東京京橋區本材木町三ノ四 **岡本商店**

京都夷川堺町 **宮崎タンス** 電一八二〇番

遞信大臣 後藤男爵題字
文學博士 大槻文彦先生序
發明者 山内啓二先生講演

紅療法講演錄

四六版金字入美本 全一冊 金五拾錢 送料四錢

附錄 醫師數名の實驗報告

本書は山内先生が京都府廳に於て醫師藥劑士を集め講演したる紅療法の神髄なり生理、病理、診察紅酸の性狀、效力治療法に涉り縷々數千言一品の紅酸百病を退消せしむるの神効を説き盡して家庭にて自在に使用せしむるに力めたり醫家は云ふを俟たず難病痼疾に苦しむの患者當今醫學界の問題たる紅療法の如何なるものかを知らんと欲せば先づ本書を讀め

尚醫師にして説明を望まば先生に紹介す療用の紅酸は望みにより頒つ

東京麹町飯田町四の卅一 大阪東區糸屋町一の五五 **大氣堂** 電話番町二〇四四番

紅療診察時間 一日二十名限り 午前九時より午後四時迄

腦病、脊髓病、神經衰弱、半身不隨、呼吸器病、消化器病、脚氣、リョーマチス、泌尿生殖器病、花柳病、其他婦人科小兒科熟練なる醫師をして診療に從事せしむ慢性患者には診察の上家庭療法を敎ゆ

ちゞれもくせも毛はへうけあひ 二大奇法

妾の手がけた方で此病にて諸種の買藥して癒えぬ人悉く治りし故夫れで皆様の進めにより世間に廣く御披露せし處一人として御喜び遊さぬ方なし御問合往復はがき

女髪結師 東京麹町區飯田町四の十六 安部歌子

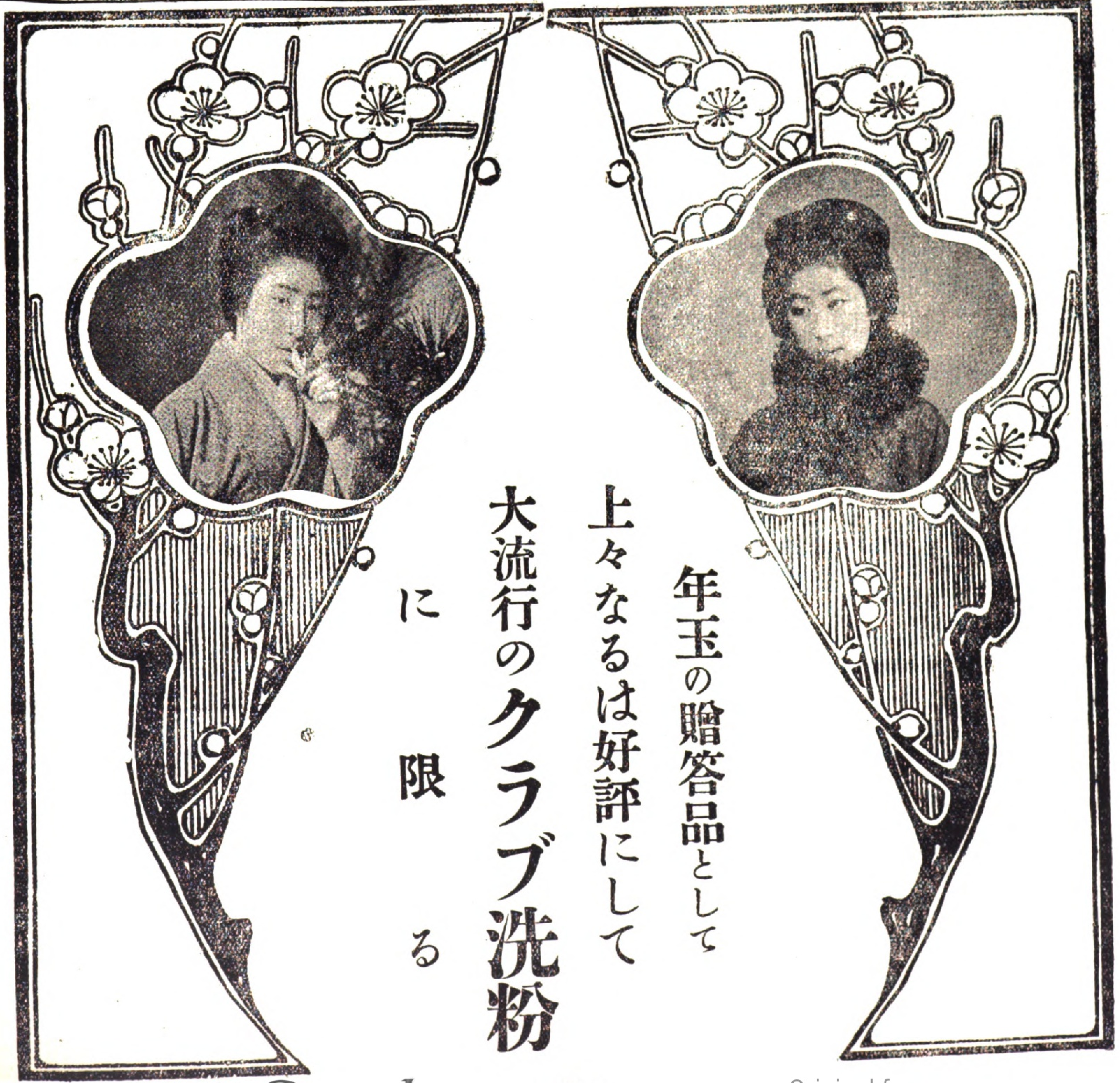
謹賀新年

北米加州サンノゼ市北第五街六百三十番 加州政廳敎會公認敷地

サンノゼ佛敎會駐在 主任 高橋豐會

サンノゼ日本人小學校 サンノゼ寄宿家庭學校 主任 高橋瀧尾

サンノゼ保育幼稚園 サンノゼ帝國婦人會 主任 春木津宇



春陽堂發行小說目錄

著者	書名	實價	郵税
鷗外漁史	七版 改訂 水沫集	壹圓三十錢	十二錢
夏目漱石	五版 鶉籠	壹圓二十錢	十二錢
仝	新刊 草合	壹圓六十錢	十二錢
仝	三版 虞美人草	壹圓四十錢	十二錢
紅葉山人	四版 合本 金色夜叉	壹圓七十錢	拾貳錢
仝	心中船	五十錢	六錢
仝	十二版 多情多恨	七十五錢	八錢
仝	三版 浮木丸	三十錢	六錢
仝	五版 なにがし	三十錢	四錢
仝	東西短慮の刄	四十錢	四錢
仝	七版 金色夜叉（中編）	四十錢	六錢
仝	七版 金色夜叉（續編）	五十錢	八錢
仝	十四版 不言不語	三十錢	六錢
仝	煙霞療養	五十錢	六錢
仝	夏小袖	二十五錢	四錢
幸田露伴	玉かつら	七十五錢	八錢
仝	七版 天うつ浪 第一	七十五錢	八錢
仝	三版 天うつ浪 第二	八十錢	八錢
仝	再版 天うつ浪 第三	八十錢	八錢
仝	五版 新葉末集	三十錢	六錢
仝	七版 葉末集	二十五錢	四錢
幸田露伴 尾崎紅葉	三版 合本 西鶴文粹	壹圓三十錢	十二錢
坪内逍遙	三版 牧の方	四十錢	六錢
後藤宙外	二版 月に立つ影（前後）	各六十錢	各八錢
仝	名倉山	七十錢	八錢
仝	陽炎集	七十錢	六錢
仝	めぐる泡	六十錢	八錢
登張竹風 泉鏡花	新刊 沈鐘	一圓二十錢	八錢
泉鏡花	再版 新作 草迷宮	七十錢	八錢
仝	婦系圖（前、後）	各八十錢	各八錢
仝	新作愛火	七十五錢	八錢
仝	四版 風流線	六十錢	八錢
仝	二版 續風流線	六十錢	八錢
仝	田毎かゞみ	五十錢	六錢
仝	五版 湯島詣	三十五錢	六錢
矢野龍溪	小說 不必要	八十錢	八錢
二葉亭主人	三版 其面影	七十錢	八錢
仝	小說 カルコ集	六十錢	六錢
仝	三版 片戀	六十錢	八錢
小栗風葉	六版 青春（春の卷）	八十錢	八錢
仝	九版 青春（夏の卷）	八十錢	八錢

著者	書名	實價	郵税
小栗風葉	再版 青春（秋の卷）	八十錢	八錢
仝	十版 脚本 金色夜叉	三十錢	四錢
仝	再版 新版 女學生	七十五錢	六錢
仝	かつら下地	四十錢	六錢
仝	名物男	三十錢	四錢
仝	再版 黑裝束	四十錢	六錢
島崎藤村	小說 綠葉集	六十五錢	六錢
仝	うたゝね	二十錢	四錢
村井弦齋	風船緣	三十五錢	四錢
仝	小弓御所	三十五錢	四錢
仝	大福帳	三十五錢	四錢
仝	飛乘太郎	三十錢	四錢
仝	芙蓉の峰	三十五錢	四錢
仝	譽の兜	三十錢	四錢
仝	衣笠城	三十五錢	四錢
仝	町醫者	三十五錢	四錢
仝	鶯の羽風	四十錢	六錢
仝	沖の小島	三十錢	四錢
仝	小猫	六十五錢	八錢
仝	松が浦島	三十五錢	四錢
仝	鎗一筋	三十五錢	四錢
仝	朝日櫻	五十錢	八錢
仝	櫻の御所	五十錢	八錢
仝	川崎大尉	四十錢	四錢
仝	夜の風	五十五錢	八錢
仝	鎧の風	四十五錢	八錢
仝	小說家	五十錢	八錢
仝	桑の弓	三十五錢	四錢
仝	兩美人	三十五錢	四錢
仝	釣道樂（前編）	五十錢	六錢
仝	釣道樂（後編）	五十錢	六錢
仝	血の淚	三十五錢	四錢
仝	深山美人	三十五錢	四錢
仝	傳書鳩	三十五錢	四錢
仝	關東武士	三十五錢	四錢
仝	西鄕隆盛詳傳 二卷	五十錢	六錢
仝	西鄕隆盛詳傳 三卷	六十錢	六錢
仝	日の出島（一）蓬萊の卷	五十五錢	八錢
仝	日の出島（二）鶴龜の卷	五十五錢	八錢
仝	日の出島（三）高砂の卷	五十五錢	八錢
仝	日の出島（四）住江の卷	六十五錢	八錢

著者	書名	實價	郵税
村井弦齋	日の出島（五）富士の卷	六十五錢	八錢
仝	日の出島（六）新島の卷	四十五錢	六錢
仝	日の出島（七）老松の卷	六十五錢	八錢
仝	日の出島（八）白鷺の卷	六十五錢	八錢
仝	日の出島（九）東雲の卷	六十五錢	八錢
仝	日の出島（十）曙の卷上	四十五錢	六錢
仝	日の出島（十一）曙の卷下	四十五錢	六錢
仝	日の出島（十二）朝日の卷上	四十五錢	六錢
仝	日の出島（十三）朝日の卷下	四十五錢	六錢
仝	文車	三十五錢	六錢
仝	新橋藝者	三十五錢	六錢
仝	新訂 寫眞術	三十五錢	六錢
小杉天外	十九版 魔風戀風（前編）	六十錢	八錢
仝	十六版 魔風戀風（中編）	六十錢	八錢
仝	十五版 魔風戀風（後編）	六十錢	八錢
仝	五版 にせ紫（前編）	六十錢	八錢
仝	三版 にせ紫（後編）	七十錢	八錢
仝	緣不緣	壹圓	八錢
仝	二版 はつ姿	五十錢	八錢
仝	九版 新夫人	六十錢	八錢
仝	再版 はやり唄	五十錢	八錢
仝	五版 新學士	五十錢	八錢
仝	三版 女夫星	五十錢	八錢
仝	六版 戀と戀	五十錢	八錢
田口掬汀	二版 黑風（前編）	七十錢	八錢
仝	黑風（後編）	七十錢	八錢
菊池幽芳	廿一版 已が罪（前編）	四十錢	六錢
仝	十八版 已が罪（中編）	四十五錢	六錢
仝	十三版 已が罪（後編）	四十錢	六錢
仝	三版 若き妻（前編）	三十五錢	四錢
仝	若き妻（後編）	三十五錢	四錢
仝	二人女王	五十錢	八錢
仝	十六版 乳姉妹（前編）	六十錢	八錢
仝	十五版 乳姉妹（後編）	六十錢	八錢
仝	七版 夏子（前編）	七十錢	八錢
仝	四版 夏子（後編）	七十錢	八錢
廣津柳浪	形見の斧	七十錢	八錢
仝	姬樣お辰（前後）	各七十錢	各八錢
仝	繪師の戀（前編）	六十五錢	八錢
仝	繪師の戀（後編）	六十錢	八錢
仝	改訂河內屋	四十錢	四錢

著者	書名	實價	郵税
廣津柳浪	自暴自棄（前編）	六十五錢	八錢
仝	自暴自棄（後編）	六十五錢	八錢
仝	亂菊物語	五十錢	八錢
仝	あやめ草	六十錢	八錢
柳川春葉	後の世（前編）	六十錢	八錢
仝	後の世（後編）	六十錢	八錢
仝	いさゝ川	四十錢	六錢
仝	四版 母の心	六十錢	八錢
仝	再版 やどり木	六十五錢	八錢
高濱虛子	再版 鷄頭	七十錢	八錢
鹽田秋聲	おのが緣	六十五錢	八錢
仝	再版 少華族（上編）	六十錢	八錢
仝	少華族（下編）	六十錢	八錢
仝	雲のゆくへ	五十錢	六錢
仝	後の戀	四十錢	六錢
前田曙山	紅露（前編）	六十五錢	八錢
仝	にごり水	三十錢	四錢
仝	腕くらべ	三十五錢	六錢
仝	檜舞臺	三十五錢	六錢
仝	茶碗酒	三十五錢	六錢
山岸荷葉	再版 新作 女判任官	三十五錢	四錢
仝	紺のれん	四十錢	六錢
仝	はむれつと	二十五錢	四錢
仝	町女房	五十五錢	八錢
仝	モンナワンナ	三十錢	四錢
江見水蔭	寒潮暖潮	五十五錢	六錢
仝	新空氣	六十錢	八錢
仝	參版 兜の星影	二十五錢	四錢
高山樗牛	十版 瀧口入道	三十錢	六錢
仝	樗牛全集（第五卷）	一圓三十錢	十二錢
姉崎嘲風	脚本 瀧口入道	三十五錢	四錢
伊原青々園	寶息子（前編）	五十五錢	六錢
仝	寶息子（後編）	五十錢	六錢
仝	新朝顏日記（前後）	各五十錢	各六錢
伊原青々園	夫ただめ（前編）	五十錢	六錢
仝	夫さだめ（後編）	四十五錢	四錢
仝	若狹物語	五十錢	四錢
仝	影法師	五十五錢	四錢
松居松葉	亡國星	三十五錢	六錢
小山內薰	小說 窓	六十五錢	八錢
上司小劍	小說 灰爐	五十五錢	四錢

著者	書名	實價	郵税
鼎法師著	突羽根（前編）	五十五錢	六錢
池雪蕾	再版 かくれ簑（前編）	四十五錢	六錢
仝	かくれ簑（後編）	四十五錢	六錢
仝	蘆分小舟	四十五錢	六錢
中村春雨	司法大臣	五十錢	八錢
泉斜汀	深川染（前編）	五十錢	六錢
◎	深川染（後編）	五十錢	六錢
村上浪六	六版 後の三日月	二十錢	四錢
仝	五版 安田作兵衞	三十錢	四錢
櫻痴居士	薄命の花	四十五錢	六錢
仝	四版 思ひ思ひ	三十錢	四錢
仝	烏丸光廣卿	四十錢	六錢
榎本破笠	再版 脚本 みだれ燒	十五錢	二錢
故河井阻菴	綱手縄	四十五錢	六錢
川上眉山	青春怨	六十錢	八錢
渡邊霞亭	吉丁字（上卷）	六十錢	八錢
仝	吉丁字（下卷）	六十錢	八錢
故村田琴伴	琴の音	三十五錢	四錢
堺枯川	勞働問題	三十五錢	六錢
長田秋濤	再版 脚本 王冠	二十錢	二錢
根本吐芳	破三味線	二十五錢	四錢
內田魯庵	霜くづれ	二十錢	四錢
北里闌	脚本 こゝろ	三十錢	四錢
田村松魚	三湖樓	四十錢	六錢
故薄氷女史	薄氷遺稿	一圓	八錢
森田思軒	無名氏	四十錢	六錢
小波 水蔭	梅二輪	十五錢	二錢
眉山 鏡花	ふところ子	十五錢	二錢
半井桃水	うつし繪	四十五錢	六錢
仝	狂ひ咲	四十五錢	六錢
水谷不倒	枯野の眞葛	三十錢	六錢
武田仰天	蝦夷錦	二十五錢	四錢
加藤紫芳	臺灣陣	三十錢	四錢
中島孤波	東武士寫眞美譽	二十錢	四錢
一風子	春の夕暮	七錢	二錢
辻治之	破窗の風琴	十三錢	四錢
肝付少將	列國變局志	七十錢	八錢
諸大家合作	青すだれ	三十錢	四錢
南新二	新作十二番內 鎌倉武士	三十五錢	四錢
香露山人	新作十二番內 梅園	三十五錢	四錢
仝	聚芳十種の內 花の種	十三錢	四錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上野廣小路

帝國博品館

日本一の大勸業場

娛樂場としての設備

(御進物交換切手は新橋博品館と共通)

◎本館は是迄東京第一の新橋博品館に比し約三倍あり
◎三階の大建築階段を設けず昇降共平地を歩むが如し
◎出品物は内外品を取揃へ貴金屬より菓子類まであり
◎賣品は責任を帶びて安心の出來るが本館の特色なり
◎何から何まで設備完全清潔なる便所廿五ヶ所あり
◎食堂…汁粉すし和洋料理あり手輕の御食事出來ます
◎喫茶店…一服なさるには喫茶店の御便利もあります
◎休憩所…二ヶ所あり新聞雜誌を備へ御休息御隨意
◎寫眞室…御休息の間に御撮影遊ばすお樂みあり
◎共他…理髮店、洗面場、栽盆中庭には泉水噴水あり

小兒病一般

●京橋區南鍋町風月堂斜向
醫學士 福田謙之
●宅診午後(電話新四八八一)

於勸業博覽會賜賞牌及褒狀
裁縫はさみ各種
(定價表は御報次第送呈す)
(電話浪花八五七番)(振替番號二九四七)
東京日本橋てりふり町 あごや

恭賀新年

大黑天印 甘味甲斐産葡萄酒

御年玉用には化粧箱　一二本入　半打入　壹打入

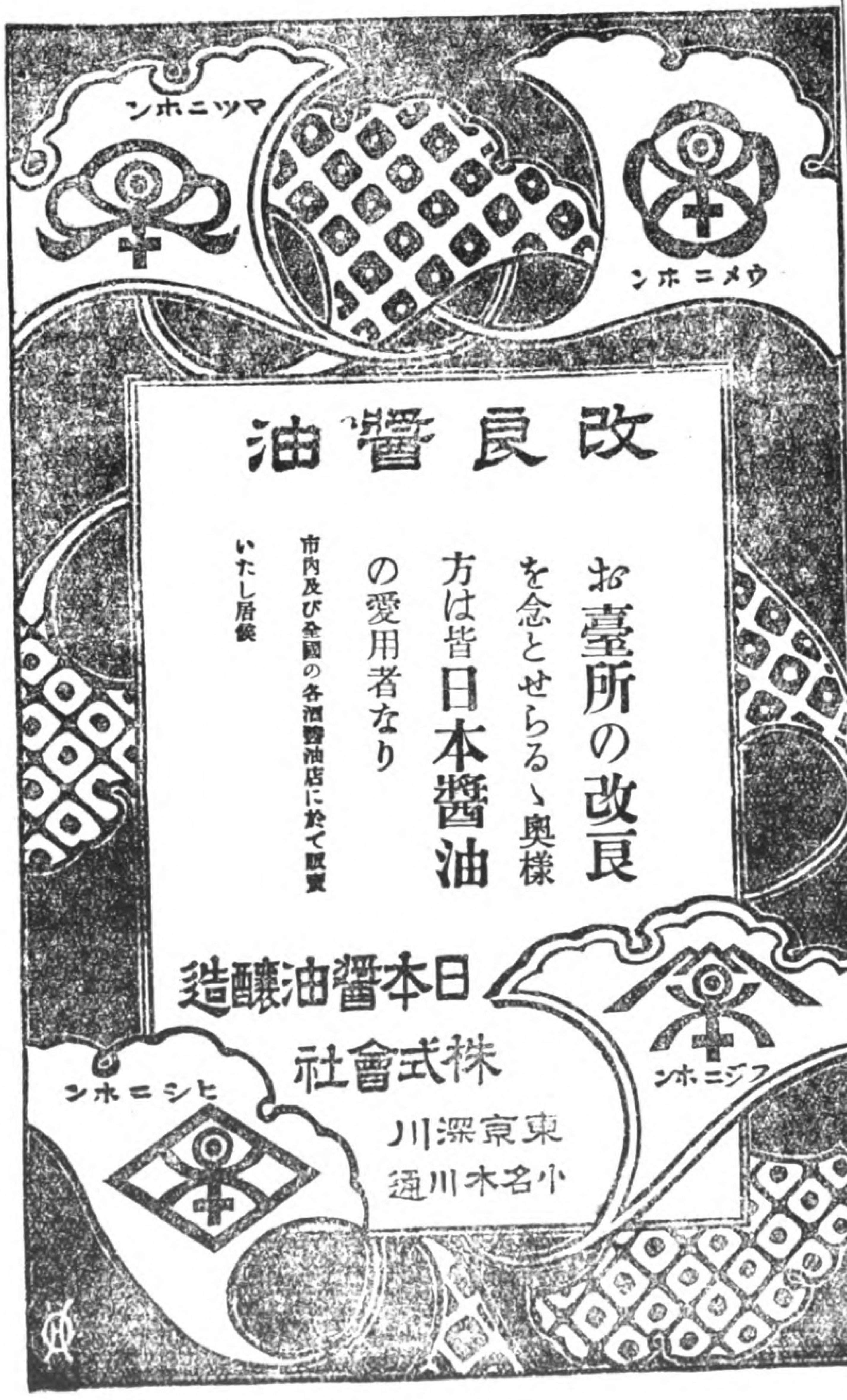
甘味甲斐産葡萄酒は坊間鬻ぐ處の甘味葡萄酒とは其品質を異にし芳香佳味婦人又は酒を嗜ざる人に適す　定價大壜一打四圓五十錢

宮崎葡萄液

宮崎葡萄液は理學博士藥學博士長井藥學博士下山兩先生の指導の下に創製せしものにして恰かも葡萄の實を食するが如く毫も酒精分を含まず腦を刺撃するの虞れなく香味共に佳良にして消化力を助け血を增し肉を肥やし日常これを飲用せば偉大の効を奏し衛生上必須の飲料なり
▲ブランデー、ウヰスキー等に混ぜ飲用せば其の味ひ最も妙なり
▲御婦人又は酒を嗜まざる人の交際場裡に最適當の好飲料なり定價大壜一打四圓小壜二圓三十錢

宮内省御用達
東京市日本橋區通旅籠町(電話浪花八七〇)振替口座一九三七番
發賣元 甲斐産商店

謹賀新年



衛生家必携懷中良藥

年のはじめ

霞たなびく初春の
旭に匂ふ日の御旗
表は賑はふ禮者客
笑ひ興ずる獅子舞に
世は太平の春なれや
春の初の樂しみに
さはれゼムを口にして
身の健康を心掛け
隔ぬ友の語らひに

空の色こそ朗らなれ
緑色したる門の松
娘子供の追羽子の音
さざめきわたる紙鳶
春こそ樂き時なれ
年中の勉强の基なり
心神を輕く爽やかに
歌留多遊に雙語六に
此の初春を樂しめや

(主効)
◎頭痛眩暈　◎食傷水傷　◎惡酔宿酔　◎息切渇
◎氣欝胸痞　◎口熱口臭　◎烟草害毒　◎時候傷　◎船車酔

定價 ゼム　七十五粒入十錢　百六十粒入二十錢　四百粒入五十錢　錫九百粒入一圓　ゼム容器入廿錢

日本一手發賣 東京馬喰町二丁目 愛國堂 山崎榮三郎
支舗 大阪道修町二丁目 山崎兄弟商會
其他賣捌は全國各地賣藥化粧品店にあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めりんす友禅
古渡り唐ちりめん
其外おもだかや式袷安物
東京日本橋人形町通り下ル西
赤のれん
おもだかや本店
電話浪花四三四五

● 東京音樂院女生徒募集
○唱歌、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、受驗科、普通科（一月八日新學期）
神田今川小路二丁目十二
校長 文學博士 三宅雄次郎
講師 天谷秀、岡野貞一、山田耕作、島田英雄、金須嘉進、渡邊正平、

恭賀新年
明治四十二年正月元旦
一森式座椅子製造發賣元
東京市芝區下高輪町廿一番地
電話新橋三〇六五番
樂民堂
同特約店
三越呉服店

御目出たう
コンナ理屈ニ合ハヌ繪ガアリマシヤウカ
新年ノ余興ニ一ツ考ヘテ御覽ナサイ
○御分りになつた方は無論の事、御分りにならぬ方も兎に角
明細書の御請求をなさい
無料て差上げます
横濱市山下町六十一番
東京銀座●大坂心齋橋
シンガーミシン會社

新年と共に大飛躍をなせる本誌の大文字を見よ

婦人世界

正月元旦發行　毎月一回四日　第壹號　定價一部拾五錢　郵稅一錢五厘　半年增刊共壹圓五錢　一年增刊共貳圓五錢　郵稅不要

◎婦人界破天荒の一大教訓大論文 夫婦情愛論 村井弦齋

◎五十九人の子供を産みし婦人 伊庭學士
◎獨逸より讀者への育兒通信 加藤博士
◎一生涯の中の最大愉快 棚橋絢子
◎八十まで齒が一本も拔けざりし人 ドクトル志村誠慶
◎古今和漢の面白き知文藝 女子高等講師 渡邊白水
◎初産當時の所感 （小山壽惠子）

◎私は三十七歳にて晩婚し幸福の家庭を作れり…… 女子高等師範教諭 平田綾子
◎日本婦人と結婚せる英國紳士の妻君評…… 磯村春子
◎四十六年前二十歳の正月につけた私の日記…… 跡見女學校長 跡見花蹊
◎初めて清國に旅行し各宮妃殿下に謁して何を感じたるか…… 侯爵夫人 鍋島榮子

◎新年號大附錄 名流婦人の今昔 新舊寫眞數十 本誌獨特珍品

◎私が二人の娘を嫁にやりし當時の苦心…… 公爵夫人 大山捨松
◎新渡戸博士が養父の意に從はずして西洋婦人と結婚せし當時の話 一記者
◎流行の衣裳と顏に似合ふ衣服は如何に選ぶか 高橋義村夫人 高橋千代
◎十八歲當時の回顧（名流婦人數十名の自筆）
◎美しき師弟の情 下田歌子

◎京都婦人と東京婦人との比較評論 中佐夫人 小山光枝
◎高輪御殿の正月
◎婦人の毛髮を美しくする奇法…… 岡村醫學博士
◎十五人の子供を牛乳にて育てし婦人の苦心
◎新婚夫婦の生活 藤生婦人倶樂部長
◎女店員の見たる婦人客の買物ぶり

◎貴婦人の頭相判斷 悉く性行を觀破す大痛快 高橋邦三

東京京橋南紺屋町十二番地 實業之日本社 振替貯金口座三二六番 賣捌全國書店

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 一三〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ケ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

小兒病診療
醫學士 内田愼太郎
淺草區福井町貳番地
宅診午前 往診午後
●電話下谷七一八番

◎婦人科專門
◎小兒科
女醫 鷲山彌生
東京市麴町區飯田町四丁目九
午前宅診 午後往診

腰巻附婦人股引
東京勸業博覽會賞牌受領

腰巻兼用の御婦人股引で其の履き方は上圖の如く合せ目を前にして御結びになるので温く履き心地も體裁もよく決して腰冷等の憂ひなく冬季防寒實用上是れに上越すものはなし
定價中長壹圓五錢大長壹圓十五錢 色白、赤、桃色、鼠、送料內地二足迄八錢五足迄以上當店持
ねびゑしらず製造發賣元
東京日本橋區ふきや町十番地（電話浪花二三四八番）
佃屋シャツ店
ツクダヤシャツ店
特約販賣元
東京京橋區南傳馬町貳角（電話本局一八二六）
横濱市伊勢佐木町壹
岡田屋商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○院長 ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）
婦人科産科 木村病院

良藥にして口に甘し
たんせきに

あさだあめ
淺田飴
すきはらにめし

たんせき ひきかぜ はいびやう よわきくによし
定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 金拾錢
東京本店 堀内伊太郎 支店 大坂
取次 全國藥店

最上醤油
キハク印
於姫路博覽會 名譽大賞牌受領
キハク印
醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます
醸造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門
信略號（キハク）又（ハク）
東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

內科一般 板垣亨
東京神田美土代町三丁目十七番地 午前宅診 午後往診 電話本局貳千九百七十番

ちゞれ毛 赤毛
白毛を未前に防ぐ特效あり
專賣特許願の藥にて妾御得意に試みし處一人として全治せぬ方なき奇藥あり困難者に告げたし往復はがきにて御照會あれ詳報す
東京市京橋區桶町四（女髪結業）山岡さだ子

シモン、クレーム
川上貞奴孃 十數年來常用の 美顔化粧料（佛國巴里シモン會社製）
「シモン、クレーム」は何故に斯長くマダム貞奴孃は此クレーム並に粉白粉（ライス、パウダー）黄色、肉色（白色）（朱鷺色）等の化粧料を日常愛用せられつゝあるか……それは「シモン、クレーム」は一種の強壯劑と皮膚を柔かくする藥劑及化學上數種の美顔料劑とを配合して數十年來の實驗と綴密なる注意監督の下に精製せられた美顔上世界無比の衛生品であるからであります

Crème Simon

「シモン、クレーム」は皮膚を白くし且つ滑かにして表面がすべ〳〵となり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ快よき香氣を發します毎日お化粧の時に御使用になれば何時迄もつやゝかしき容貌を保たれます
「シモン、クレーム」はヒビ、アレ、日ニヤケ、汗モ、ニキビ、唇のワレ、霜ヤケ又髯剃の後やお小供衆に塗抹ますとすべ〳〵として大變氣持ちがよく又美しくなります
東京大阪三越呉服店は本品を世界最上化粧料として今や盛んに推擧しつゝあり各地洋品店、化粧品店にあります
日本代理店 横濱 七十番 エー、ハイム商會
關西特約一手販賣 大阪市安土町四丁目 河井商店化粧品部
登錄商標

「シモン、クレーム」「粉白粉」「石鹸」共特ニ登録商標お確めの上御購求を願ひます

最上醤油
品質ハ 印ト少シモ異リナシ
發賣元 日本橋區小網町三丁目廿七番地 濱口吉右衛門
醸造元 千葉縣銚子町 濱口吉兵衛

宮內省御用達
最上醤油之元祖
上
開業貳百六拾五年
醸造元 下總銚子町 濱口合名會社
振替貯金口座五〇貳壹番

本品は畏れ多くも
常宮殿下
周宮殿下
富美宮殿下
泰宮殿下
御使用品
高等香油
チエリーオイル
紳士貴婦人令孃用

千九百七年巴里流行
乳狀薄化粧料
フエスクリーム

珍ら敷新輸入品
最も日本婦人に適し皮膚の營養滑澤に實効ある
佛蘭西新式煉白粉代用品
本品は顔を洗ひ乾きたる後少量を萬遍なくぬり摩擦すれば實に得も云へぬなめらかによきつやを出し香氣よくあれを防ぎ白粉やけ皺のよる憂なし又ゑりの汚れることなき嶄新良好なる薄化粧料として紳士貴婦人間に高評あり
定價一瓶三十五錢全國到る所の賣藥小間物化粧品店にあり
東京市日本橋區本町二丁目 チエリーオイル本舖
發賣元 高橋初次郎
振替貯金口座一〇九三二番 電話長本局四一一三番

本品の特長
一、根元にコロツプを裝置せるにより舊式のゝ如く硬からず膚ざわり軟らかなり
二、皮膚を摩擦する事少き故禿頭の憂なし
三、頭痛癖ある婦人にも用ゐて爽快を覺えしむ
四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髪の傳染病を媒介する憂なし
諸かもじ製造販賣 東京市神田區鍛冶町一七 振替貯金口座壹八壹八八 田中金三郎
小賣特約店 京橋、大西白牡丹 本郷、兼康 淺草、百助 神田、三井商店 日本橋、柳屋 其他有名なる小間物化粧品店にあり

新案特許一〇三六二 衛生的な改良かもじ
丸髷・島田・銀杏髷用其他

市場の特色
あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し市內ハ無償で配達致します
東京新橋角 帝國博品館
デンハ新ツ
日本一 大勸業場 東京名所

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年劈頭の絶好讀物

女學世界

一月一日發行 九日初刷 第壹號

正價廿錢 郵税二錢 初刷に限り 前金一冊二十錢 八冊一圓六十錢

新年大附錄 名媛かゞみ ▼雙六應用▲ 水野秀方女史の麗筆に成り意匠の清新なる彩色の艶美なる天下の絶品

◎最高學府を出でたる女の行衞　秋雨

◎婦人が一人前となる能力を試驗する最良機關（婦人記者）

▽不幸なる結婚と不名譽なる老孃　眞心ある女

▽家庭教師の眼に觸れたお孃さんの日記　家庭教師

▽學問が如何に家庭に役立しか　宮川壽美子

◎禮式の立場より見たる女の女學生　小笠原清務

◎枯るゝ花嫁と咲く花嫁　宿の妻

▽むつかしい姑を持てる我身の上……

▽嫁と姑と反目する實例……

▽樣々の儀式を以て迎へらるゝ新年

▽上手に書かんとする人の撰む毛筆

口繪は本誌獨特の最珍料を蒐錄す　外材料充滿

◎幸福なるべき結婚を取逃せし女　葉山女史

少女世界

▽一月一日新年號△ 第四卷第壹號

●正價拾錢 郵税初刷に限り一錢 半年分前金郵税共四冊四十錢 八冊八十七錢

◎口繪 彩色石版 かるた會　彩色石版 曙　▽梨本宮方子女王殿下▽誌友面影

▽唱歌 少女 山田花袋　▽お伽小說 六の花 巖谷小波　▽春のあそび▽新案の編物……

▽歌人 信綱 初春問答 石橋思案

○小說 富士の聲 記者　○福壽草 御殿小舟　○長壽の女 歌人 信綱

○小說 久子 山清　○鷄 一番鷄 小舟　○造花 山茶花 櫻桃　○少女メタル條例……

○小說 心の姉 笠峯

新年大附錄 少女年中行事雙六（小波案 蕉園筆）

▽奇麗なると天下無類、そして新年のお慰みには此上なし

博文館發行（東京日本橋區本町）（郵便振替貯金口座二四〇番）

組絲教科書

共立女子職業學校編物組絲主任敎授 豐原繁尾子先生著

全壹册　葛布和綴美本 定價金八拾錢 郵税金六錢

此書は斯道熟達の豐原先生が多年の研究熟練により其難易程度を考へ教科用に適すべく又初學者の楷梯となるべく、最初絲の取扱方より順を追うて羽織紐、帶止等其他一種の組紐、打方を一々圖により詳述せられたるものなれば眞に世間無比の珍書といふべく敎科用にも家庭自家用にも又敎授及受驗參考用にも必ず缺く可らざる良書なり

發行所 東京市京橋區築地二丁目廿一番地（電話新橋八八番 振替貯金口座壹七八番）株式會社 國光社

大賣捌 ◎東京 春祥堂 東京堂 上田屋 東海堂 榮進館 ◎大阪 良明堂 至誠堂 積文社 ◎名古屋 須原屋 北隆館 星野書店 文魁堂

産科婦人科專門 岩田病院

診察毎日午前 入院隨時

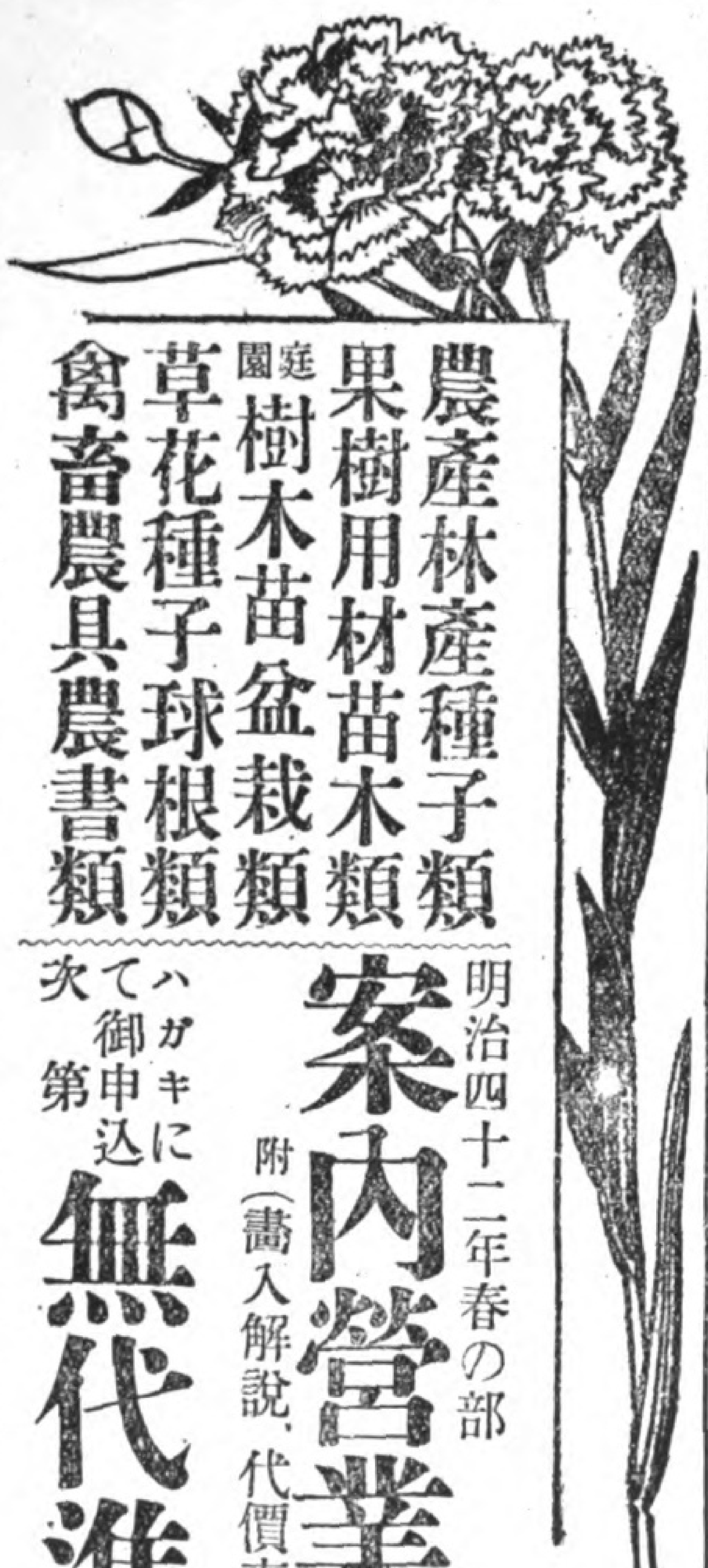
淺草區左衞門河岸 電話下谷一〇二八

峰内科醫院

内科特に腦脊髓神經疾患

院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）



資本金七拾萬圓

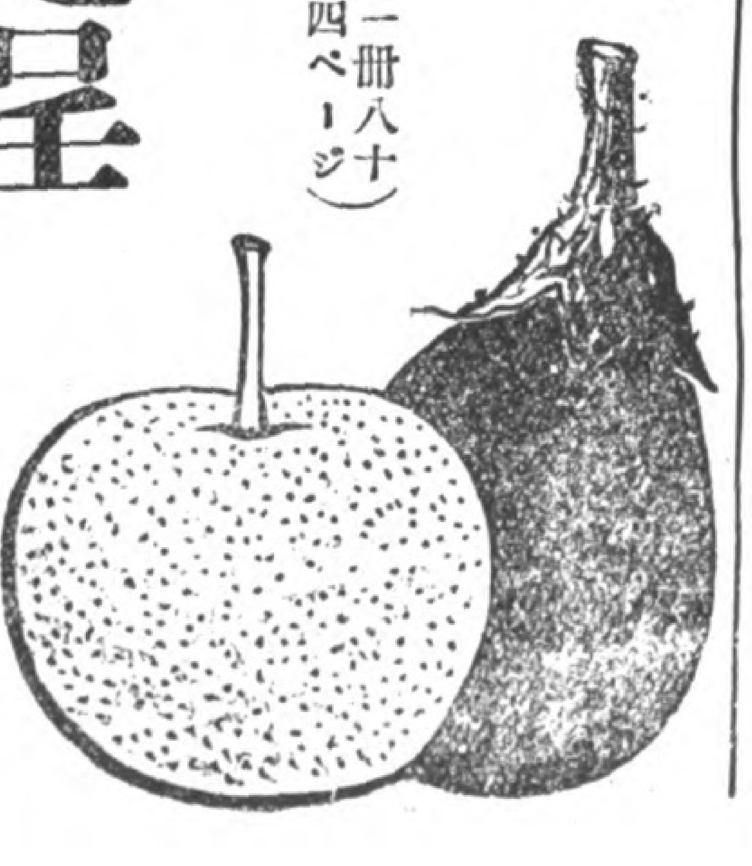
農產林產種子類　果樹用材苗木類　庭園樹木苗盆栽類　草花種子球根類　禽畜農具農書類

明治四十二年春の部 案內營業（一册八十四ページ） 附（書入解說、代價表）

ハガキにて御申込次第 無代進呈

東京內藤新宿電車終點際（電話番町一八一六）

日本種苗株式會社



警告!! 類似摸造品數多あり甚きは其包裝まで摸倣したるものもあり注意!!

タカヂアスターゼ

▲澱粉不消化 消化不良に原因する胃腸病中其七割五分は澱粉不消化に起因すとは歐米の統計が明示せる所なり肉食人種に於て已に斯の如し然るに本邦人は專ら米飯を以て常食と爲すが故に脂肪と蛋白質は泰西のそれに比して少きも澱粉質に至つては甚だしく多量なるを見るされば消化不良中澱粉不消化病の吾國に多きは當然の事といふべし從つて唾液の作用を補佐して澱粉をよく溶化し又糖化する藥品タカヂアスターゼは吾人が常に缺く可からざる藥劑なり（說明書は直接發賣元に要求せよ郵呈す）

東京市日本橋區南亭町二番地

保險附 オルガン

精巧無比

十字屋

東京銀座三丁目　電話新橋二二五九　振替口座七一五九

歲末歲始贈答の好適品數多取揃有之候

樂器店

平圓盤發音器　目錄進呈

REINIGUNG

清房丁幾

腦病◉心臟病◉子宮病

內務省衞生試驗所試驗濟 男爵岩佐純先生有効保證

血行障害ニ基ク諸病ニ特効アル新藥 上六醫院長余語盛貫先生發見調製

注意書入用ノ方ハ郵劵貳錢ヲ要ス

東京麴町區上二番町上六醫院（電話番町五〇壹番）（清房丁幾）製藥部

意匠登錄

玉おしろい

又上野廣小路第二博品館三階にも出店仕り候へば御立寄りの節御下命の程奉希上候

朝日堂敬白

水原產科婦人科病院

○神田猿樂町十二番地 ○電話本局千八百九番 ○院內ニ產婆學校アリ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區蠣殼町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 讀賣

洗用 ワッセル

◉此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても洗はずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳號）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶し拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の拭き掃除にも有効です

定價　拾貳號入 金拾五錢　袋入二錢
　　　六號入 金八錢

東京市京橋區三十間堀三丁目電話新橋一七一二
洗濯用ワッセル日本一手販賣元
御洗髪用ひさご印芳香ワッセル製造元
三友商會

齒科治療 ドクトル 齋藤清太郎
麹町有樂町帝國ホテル向 電本（千五百十九）

新着 土州本場珊瑚 直取引一市價より三割引格安に販賣仕候間何卒御光來の程奉希候
卅錢均一物は御年玉に
特許又は持ち古るしの小間物交換仕候

流行の 櫛 簪
鼈甲 金 銀
蒔絵 細工 品
[illegible]
三河屋
[illegible]

恭賀新年
三越呉服店
日本橋駿河町

最新流行
美術蒔繪櫛
簪 小間物類
束髪用品
和洋化粧品
[illegible]
東京日本橋通り[illegible]
浪花一四〇六

謹賀新年

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂 持阿彌

吹留眞綿
實用新案登録 特許及

衣裳中入 吹留眞綿（すいとめまわた）
三越呉服店

男女着物及羽織用 定價一枚七拾錢
九拾錢、一圓十錢 一圓卅錢の各種郵税孰れも八錢

白木屋、松屋、銀座越後屋呉服店にて實地使用販賣其他重なる呉服店綿店にて販賣す
最上等の眞綿製其の暖さと强さは普通眞綿の二倍餘を保ち其のまゝ着物にはいる樣に出來てをりますから御一人でも自由に御取扱ひができます
又御婚禮の御祝物等にもよろしからむ

洗濯の出來る眞綿細工
腹卷。腰卷。男女股引。肌襦袢。チヨッキ。
眞綿製ハンケチ

婦人腰卷　御婦人はだ着

極寒要品
御親交の方々への御進物にも適當

定價（郵税共）			
腹卷	一圓五錢	特製	一圓五十錢
腰卷	一圓六十五錢	特製	二圓
はだ着	二圓五十錢	特製	三圓
半股引	二圓五十錢	特製	三圓
チヨッキ小	二圓	大	二圓八十錢

眞綿製ハンケチ箱入壹打三圓二十錢

御婦人腰卷は優良の蠶入眞綿製冷より來たる男女の一般病によく特に産前産後の方によき事は醫師産婆の證明する處です御婦人はだ着は製法薄く召した姿たもよく暖さと其着心地は無上の品にして殊に幾度びか洗濯が出來ますからいつも奇麗でをります

眞綿製ハンケチ
御年玉用には絶好の佳品
美麗箱入壹打三圓二十錢

東京丸ノ内 報知新聞社代理部
京橋區南紺屋町 實業之日本社代理部
東京市京橋區銀座四丁目 電話新橋一七七六 振替口座九四三二
綿問屋 大和屋商店
東京芝區西久保葺手町 電話新橋一五四九
綿絲問屋 さかいや商店

實證は毎夜此腹卷を用ひし人は三四日以後に安眠する事を得つゝありと云ふ又看護婦が見たる生徒の養生には其の要品なり

○受賣御望の御方は特約店へ御申込を乞ふ

明治四十二年一月一日發行（毎月五日廿日二回）
（定價金三錢五厘一ケ月七錢郵税不要）（廣告料一行金六拾錢）
發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 永持德一
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所
發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館
印刷所 東京市牛込區市ケ谷加賀町秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

聖詔を捧讀して會員諸子に告ぐ

佐藤正

朕曩日詔を下し臣民の嚮ふ所を知らしむ。今や國運の趨勢に從ひ宮廷各般の費途亦之に伴ふものあり宜く華を去り實に就き淬勵心を盡し規畫する所あるべし。

皇室財政の收支固より限定あり。供需其途を謬らずして收支豫算の金額を確定し萬已むを得ざるに非ざれば其範圍を超越するを許さず。

宮廷の臣僚其れ克く斯旨を體し協戮して諸般の規模を革新し皇室財政の基礎を鞏固にし國家戰後の經營と相須ちて施設の全きを期せよ。

以上叜に謹みて掲げし所の　勅諭は去月十八日田中宮內大臣を御前に召され賜はりしものにして同大臣は翌十九日午前十時德大寺侍從長以下省中各部局長官を宮中南溜の間に召集し該　勅諭を捧讀且厚く訓達する處ありし由なるが、該　勅諭は去年十月十三日一般臣民に下し給はりし　詔書の御趣旨と相聯繫する所あるや申すまでも莫きことにして重ねて斯る　勅諭を下し給ふ　陛下の大御心に吾人は恐懼感激措く所を知らざるなり。

謹みて該　勅諭を捧讀し　聖旨の在る處を按ずるに其第一段に於ては國運の趨勢に從ひ宮廷各般の費途自ら之に伴はざるを得ざるも須く華を去り實に就き百事規畫するの要あるを示され、第二段に於ては　皇室財政の限定ある收支に就き其途を謬らず其範圍を超越せしめざるの要あるを示され、第三段に於ては　宮廷臣僚の斯旨を體し協戮以て　皇室財政の基礎を鞏固にし施設の全きを期するの要あるを示さる。

聖意神宏一言を贊する能はざれども、要は收支相濟し、入るを計りて出すに謹み以て　皇室財政の基礎を鞏固ならしむるやう當局臣僚に對し　聖意を示さるゝに在ることゝ拜察し奉る。

申すも畏きことながら入るを計りて出すを制し財政の基礎を鞏固ならしむるの點に於ては我等臣民個々の家庭に於て悉く其悟覺なかるべからず。家庭に於て此局に當るものは一家に主婦たる人に他ならず。一家に主婦たるものは總理大臣が國家財政の局に當るが如く一家財政に對し其局に當らざるべからず。然れども退て思ふに國家と個人と其財政整理の途に於て自ら相異るものあり。何となれば國家に總理大臣たるものが國家財政に處するの途は出るを計りて入るを制するに在れども家庭に主婦たるものが一家財政に處するの途は入るを計りて出るを制するに在ればなり。何が故に國家と家庭と其財政整理の途に於て斯く相異れるか。

思ふに當局者が國家財政に處するに當り第一に念を致すべきは國家に必要缺くべからざる費途に對し如何なる財源より之れを求むべきかに在り。如何なる邊より財源を求むべきか、如何なる種類の財源により國家財政を料理するの當を得たるかと考一考するに在り。之れ即ち出るを計りて入るを制するの極致なり。然れども主婦が一家財政に對し之れに處するの途は自ら相異れり。何となれば個々の家庭に於ては各々一定の收入あり。而して主婦は此の一定の收入を標準として一家に必要なる財政を畫せざるべからざればなり。これ即ち入るを計りて出るを制する所以にあらずや。

夫れ國運の趨勢に從ひ國家各般の費途自ら之れに伴はざるべからざるは云ふまでもなし。尙又交際複雜を極むるに伴ひ一家各般の費途亦自ら之に應ぜざるべからざるの要あることも云ふを待たず。然れども百事華を去り實に就くに於ては自ら亦た其費途を節し得べし。之れ儉約の本旨にして一家に主婦たるもの大に想を爰に潛めざるを得ざるなり。

我愛國婦人會は勤儉の二字を標榜して立ち、會運の隆盛に伴ひ愈よ此大主旨の不言實行に勉め會員相互亦た心を一にして等しく之に應じつゝあるは諸子の認めらるゝ處なるべし。然りと雖も華に就くは易く實に就く稍や難きものあり。故に心に勤儉の必要を認めつゝも尙ほ實行に於ては艱める諸子莫きにあらじ。之れ吾人が　至尊の大旨に對し奉り特に會員諸子に苦言する所以なり。

今や千里同風新春の天佳氣靉靆たり。此時に當り人は多く勤儉の二字を忘し易し。加之語に之れあり一年の計は歲旦に在りと。故に吾人此歲端に當り　聖詔の大旨を言說し諸子一歲の計を策するの一助に具ふと云爾。

新春の御吉慶千里同風めでたく申納め候先以て各地會員の君達には益々御健勝御齡を重ねられ候事欣喜の至りに御坐候、われ等一同亦無事新年を迎へ候まゝ、御心やすう思召下され度候、さて本年を以て戰勝後平和の第四年に入ることゝ相成、過去一年間、國家各方面の經營社會百種の事業等孰れも急速なる大發展を呈するの盛況を見聞し、國家の爲大慶至極に奉存候、わが愛國婦人會も亦その間に在りて益々國民の同情を博し、目下七拾有餘萬の會員數を計上致居候、從て本會の目的たる軍人の遺族幷廢兵の救護等庶般の事業長足の進境を出現致居候。之れ大勢の然らしむる所とは云へ、全く　總裁閑院宮妃殿下の難有思召を奉體して、會員諸氏が能其實行に勉められたるの結果に他ならず、何卒本年も一層の奮發勉勵を以て本會の趣旨を貫徹致度存候、先は新年の御祝詞まで、かしこ

明治四十二年一月一日

愛國婦人會
監事 男爵夫人 三井苞子
同 伯爵夫人 伊東美津子
理事 子爵夫人 谷玖滿子
同 子爵夫人 岡部坻子
同 侯爵夫人 鍋島榮子
同 前公爵夫人 毛利安子
同 公爵夫人 島津田鶴子
同 前公爵夫人 近衛貞子
同 公爵夫人 大山捨松
同 公爵夫人 德川泰子
副會長 公爵夫人 一條悅子
會長 公爵夫人 岩倉久子

愛國婦人會支部職員
愛國婦人會々員
御中

愛國婦人會記事

□臨時參事會　去十二月十二日午後一時より本部に於て臨時參事會を開き同四時閉會す。當日の出席者左の如し。關邨子、東鄕鐵子、濱尾作子、高木鐵子、松平須磨子、山脇房子、三輪田眞佐子、仁杉歌子以上の各員幷佐藤事務長代務。

□評議員　去十二月十六日午後一時より本部に於て開會、當日の出席者は三十二名にして午後四時閉會せり

▽愛媛支部△

□溫泉郡幹事部　第二回總會擧行の狀況左の如し。

一明治四十一年十一月七日松山市萱町松山公會堂に於て開催

一當日參列の諸氏左に

愛媛支部長、愛媛支部顧問、田林聯隊區司令官、黑田松山警察署長、倉根伊豫郡幹事部顧問、長井松山市幹事部顧問、吉川赤十字社支部幹事、以上の他來賓として町村委員（町村長）を始め百餘名、會員五百七十四名。

一午前十一時別紙擧式の順序に依り總會の式を擧げ午後一時全く終る

一來賓中祝辭演說を田村聯隊區司令官、祝辭を吉川赤十字支部幹事述べらる

一擧式終て後樓上に於て祝宴を開く餘與として今樣手仁波能狂言泉祐三郎社中の狂言あり

一午後五時全く閉會す

一此總會を機とし勸誘せし結果新たに入會したる會員貳百餘名にして同部內に於ける現在會員は參千貳百五十八名となれり。（總會擧式の順序略す）

▽北海道支部△

□軍人遺族及廢兵慰藉會　筑前琵琶師千秋荒木流劍舞開祖金房冠一郎一行は日本固有武士道獎勵の旨趣を以て來札、演奏中の處當部事業援助の爲、演藝寄附の申出を許容し、札幌區在住軍人遺族幷廢兵を招待し、去十一月十九日午後一時より支部樓上に於て慰藉會を開催せり、當日來會せる遺族は約五十名にして山田、佐藤兩副長を始め、支部職員總出にて來會の遺族を慰問し、一同頗る滿悅の模樣にて午後四時三十分閉會せり。

▽靜岡支部△

□引佐郡幹事部　去十二月六日午後二時引佐郡幹事部は愛國婦人會第一回總會を同郡氣賀町高等尋常小學校內に開く當支部よりは李家支部長同顧問、田中主事事務員等出席、同幹事部よりは小山幹事部長同顧問役員以下會員三百餘名遺族廢兵百余名幷磐田郡幹事部長濱名磐田小笠榛原等の各幹事部顧問列席し小山幹事部長の開會の辭に續きて順次次第書に隨て式を擧行し午後三時三十分閉會を告げたり式中李家支部長の懇篤なる挨拶の下に遺族廢兵に救護金を授與せられしと、李家顧問の演說中會員諸氏は平和の今日にありても尙戰時を想起し、遺族廢兵を慰藉して其志の終始あらざらん事を希ふの一段に至りては一般來會者に不少感動を與へ廢兵遺族中には感泣せるものを見受けたり、此日天氣晴朗風穩にして庶般の施設上多大の便宜を得從て盛會を極めたるは全く天與の幸と云ふべし、式後同郡役員は支部長と共に記念撮影をなし、會員は各自餘興を觀覽し和氣靄々の裡に散會せり、又總會に際して新規加盟せし會員三百餘名なりと云ふ。

恭賀新年　愛國婦人會本部事務員一同

恭賀新年　愛國婦人會　八田一精

新年互禮會　來明治四十二年一月十三日午後一時例年の如く九段偕行社に於て愛國婦人會職員新年互禮會を開催する事に決定す、但し會費金壹圓

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部近況

▽鹿兒島支部△

□第六回總會　去十二月六日午後鹿兒島市に於て照國神社の神苑に行はれ非常の盛況を極めたり連日來打續いての晴天は當日は殊に小春日和の好晴にて支部職員一同は早朝より諸般の準備に怠なく式場は社前の中庭に設けられ天幕を以て蔽はれたる式壇上面には國旗と愛國婦人會旗を交叉し菊花を飾り更に其奧なる壇上には高く總裁殿下の御眞影を安置し向つて右は來賓、特別婦人會員席中央は正會員左側には支部長同副長評議員席及び顧問席を設けたり斯くて數發の煙火を相圖に會員來賓は陸續として參集し午後二時半第一鐘聲と共に會員役員各設の席につき第二鐘を以て來賓着席を終れば、支部長阪本知事夫人式壇に上りて開會の辭を述べ君ヶ代の奏樂ありて後、顧問阪本知事戊申詔書を捧讀し夫より支部長更に進んで總裁閑院宮妃殿下の御眞影を開被し奉り御諭旨を捧讀す

愛國婦人會鹿兒島支部は會員漸次增加し會務亦整ひ茲に第六回總會の式を擧行するに及べるは誠に喜ぶ所なり

惟ふに斯會の事業は近時年を追ふて發展し其成績見るべきものありと雖も前途尙ほ遼遠なり諸子愈々奮て會務の擴張に努め以て其目的を完成せんことを望む

明治四十一年十二月六日

愛國婦人會總裁載仁親王妃智惠子

支部副長島津男爵夫人東京本部より送り來れる岩倉會長の祝詞を朗讀す

鹿兒島支部の姉妹方は鋭意會務の擴張を圖かりし結果會員漸次增加し本日をトし茲に第六回總會の式を擧行せらるに及べるは久子の深く喜ぶ所なり然れども本會事業の目的を遂行し遺族癈兵救護の實を完ふせんには前途尙ほ容易の業にあらず希くは會員諸子の方々に於ては不倦不撓愈々奮て本會の擴張に努められ以て

總裁殿下の台旨に副ひ奉る所あらんことを一言を述べて祝詞とす

明治四十一年十二月六日

愛國婦人會長　公爵夫人　岩倉久子

副長坂元少將夫人の答辭を朗讀し次て支部長は各郡市癈兵軍人遺族救護金を夫々委員に交付して後御眞影を閉被し奉り市來幹事は四十年及び四十一年度の事務報告を爲し現在會員數及び會計報告を終り會の事業として韓國軍隊へ慰問袋繪葉書寄贈の事より三十四旅團四十五聯隊出發の際に於ける送別及び贈品等の事を說き猶ほ第六師團の遣韓三個聯隊へ來年慰問袋寄贈の企ある次第を述べ本部出張野中女史は會の事業より其精神に說及ぼし會員募集の必要を說きし所實に熱誠の雄辯には男子さへ眼瞼を濕すばかりにして會員席には手巾に顏を蔽ふ人も多かりき斯くて女史の演說終るや阪本夫人閉會の辭を述べて式を終れり時に午後四時過ぎなりきかくて會員には菓子折詰券と引換に折詰を渡し浩然亭及び柳月亭に於て隨意遊散茶菓を喫しながら田清談して退散せり會するもの約八百數十名

▽茨城支部△

□多賀郡幹事部第二回總會　十一月廿四日多賀郡役所構內に於て開會せり、式場は質素にして紅白段々幕を繞らし、國旗を交叉し、別段の裝飾をなさず、當日午後零時三十分開會せり、支部長坂達子副長田中賴子支部幹事木間瀨房子、主事榊倘明、幹事部長山田いの子顧問山田衆長其他支部幹事部役員特別會員通常會員等各所定の位置に着くや、幹事部長開會を宣告し、顧問は登壇して御令旨を捧讀し支部長の祝辭幹事部長の答辭、顧問の祝辭會員總代の祝辭、等に次て戰病死者軍人遺族十四名に對し、救護金を授與し終りて閉會を告ぐ、式後紀念繪葉書並菓子折を配付し、福引等の餘興等あり盛會なりし當日の出席會員は貳百七十餘名にして、癈兵及軍人遺族は八十餘名なりし由

甲信越軍隊輸送日記

（各地愛國婦人會員が如何に熱誠をこめて軍隊を待遇せられしか）

（一）

本會顧問步兵第五十八聯隊長步兵大佐　堀內文次郎

甲信越各地の愛國婦人會員方か今回我々軍隊輸送途中に御盡力下すつた御熱誠御同情には私以下下士兵卒に至る迄、實に感激にむせびました、私は各地に於ける皆様の御働きの實況を　總裁殿下に御報告申上げ、會長様始め本會の皆様に御しらせ致す事が、實に愉快至極でムいます私は我五十八聯隊を率ゐ、相撲の平野で閑院宮殿下の御部下として、秋期演習に從軍せしは誠に幸運なる次第にして、永く感銘致す所、且つ信越壯丁が子孫に語り傳へて榮譽とする所で御座います。此行軍途中私は幸にも近衞公爵御邸の傍を過ぎましたから、早朝ではムいましたが參邸して、御後室樣に御目にかゝり故公爵閣下の御靈前に御訣別の禮拜を爲しました、此時の私の胸中には往事を追憶して無限の感想に暫時は胸を打たれて沒我の境にありましたが、氣が附くと傍には後室様が御靈前の戸を抑へて御いでになりました……。嗚呼故近衞公爵と本會……私は心中深く謝して御邸を辭しました。

八王子町に於ては　閑院宮殿下の御宴に列席の光榮を擔ひ、あまつさへ厚き御辭を拜受して先月廿一日午後三時同地を出發致しました。此夜猿橋停車場にて山梨支部幹事飯島けさ子、齋藤やすの御二方が寒風をも厭はず人夫を指揮し、親ら土瓶を持つて各兵に茶を勸めて下さいました、夜半甲府に着しますと支部長熊谷より子様始め幾んど全部の會員方が御揃ひにて一時間餘も歡迎に御盡力下されたのには一同感謝の辭もありませんでした。

それより各停車場にて會員方御歡迎下すつた中にも、汽車の停車せざる處又は極めて短時間の停車にて御厚意を完ふする事の出來なかつた處もありましたのが不得止こととは申し乍ら誠に遺憾に存じます。

諏訪郡平野村川岸村落合村富士見村境村本郷村其他各村の會員方汽車の窓々に茶を持參し各兵の水瓶に入れて下さひました、就中某御老婦人が御自分の愛兒にても對する如く夢中になられて汽車の動き出すにも拘らず、土瓶をさげ熱情こめて追かけ下されたるを見たる各兵は、寒さも何もうち忘れ感涙滿眼ー嗚呼日本の兵卒は如此無言の感化を受けて、戰時に一身を獻げる氣になるのであります。本會會員方の熱情が如何に國家に影響するかは、瞭夜にも明瞭にわかります。下諏訪に着せしは夜中二時頃にして寒威も中々なりしに幹事部長始め百余人の會員方諏訪湖の名物しゞみの味噌汁、暖かく、各に兵御給仕して下さひました、此溫情にあたゝまりたる各兵は、少し位の風邪も癒えたと申して居りました。

謹賀新年

愛國婦人發行所
監督　佐藤正
主筆　下田次郎
發行人　山澤俊夫
編輯兼會計主任　永持德一
神谷誠之
外發行所員一同

明治四十二年一月一日

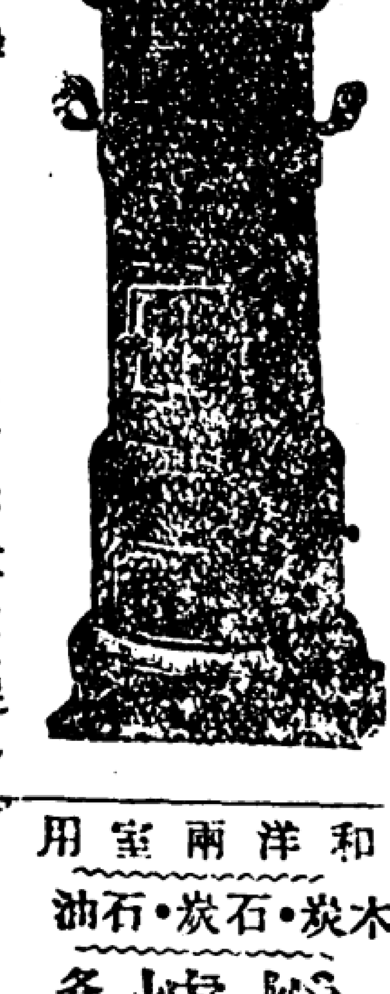
美形隆鼻術
▲成形術
背凹陷罌丸及乳房欠損治療有効手術午後夜間
大學醫院辭職　和田耳鼻咽喉醫院
神田區今川小路二丁目十一番地　和田昌訓

足袋販賣廣告

一足袋は愛國婦人會東京支部授產場に於て軍人戰死者遺族並に癈兵家族の裁縫したるものにて尤も丁寧親切に調製してあります又直段も格別安く販賣致します
一足袋の地質は特に吟味しあれば直段の安き割合に丈夫に出來て居ます故御求の上御驗を願ひます
一足袋は裁縫教師として都下有名の職人を雇入れ其監督の下に出來たるものにて形も好く又穿き工合の宜しき事は昨年來既に御使用の方々の間に好評を博して居ります
一足袋の種類は左表の外紺瓦斯織、コール天、あり外にシャツ椅下小兒胸掛（エプロン）西洋前掛等も調製販賣致します
一純白絹天足袋は美麗なる箱入てあります故御進物等には最適當と思ひます
一市內に限り十足以上は送料を申受ません

東京市麴町區飯田町九段坂下公園
愛國婦人會東京支部
授產場販賣部

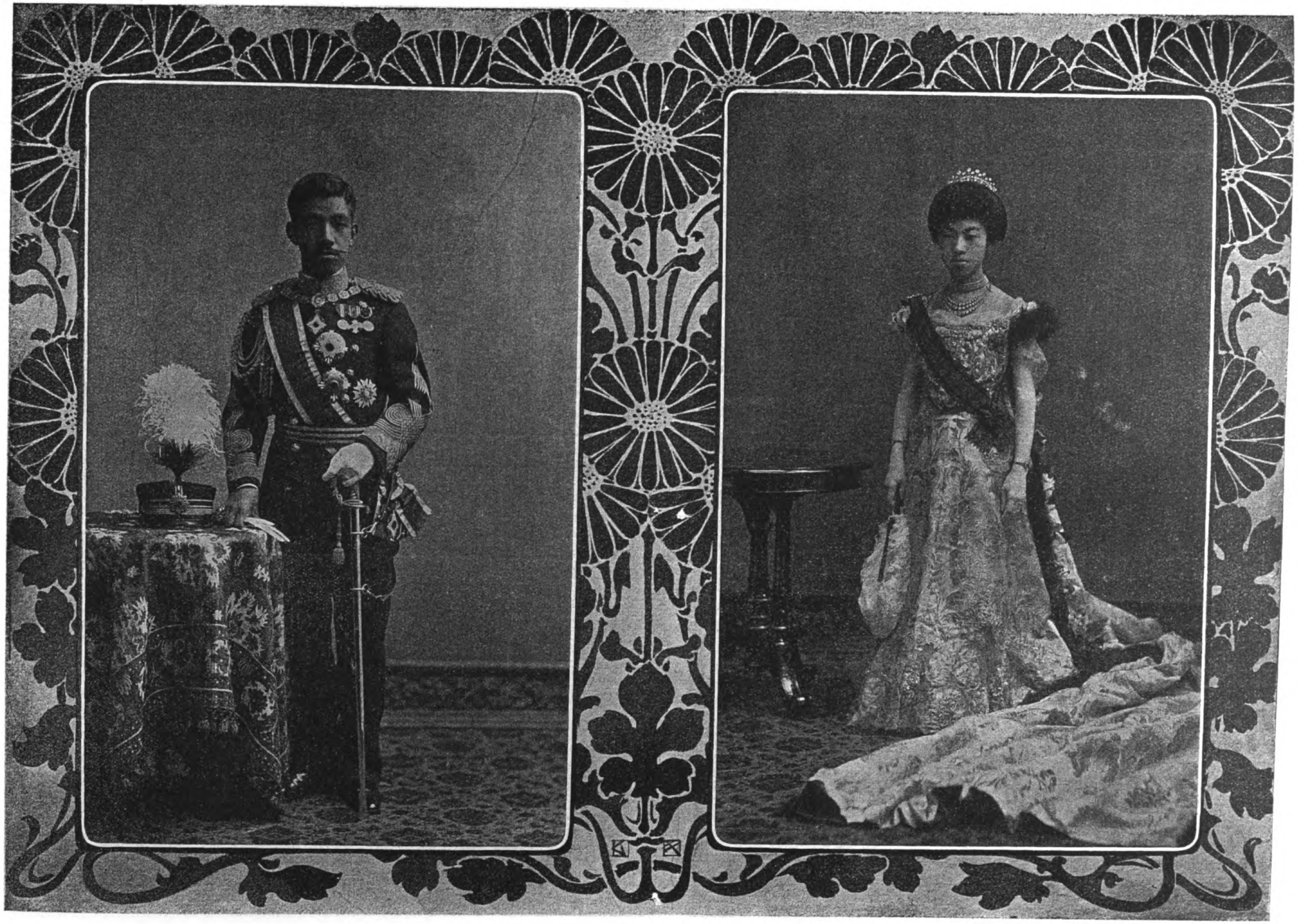
富貴煖爐
特許



特長　嶄新螺旋式にて煖爐の普及を圖るにす
燃料　木炭コークス兩用にて普通煖爐の半量にて足る
●目錄呈進
和洋兩室用
木炭・石炭・石油
各種煖爐
發賣元
淺草茅町淺草橋際　下谷一九二三
阿部彥四郎商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百六拾八號附錄
明治四十二年一月一日(毎月二回五日廿日)發行
明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可



發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所　印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN